

「POPPY!!!」

野田慈伸

登場人物

譲二…65歳。独身。フラワーショップ「キムラヤ」従業員。
みどり…65歳。譲二の昔の恋人。譲二と40年ぶりに再会。

木村たかお…35歳。フラワーショップ「キムラヤ」店長
木村カオリ…29歳。たかおの妻

春樹…39歳。花の仕入れ業者。譲二の友達。
樹里…34歳。みどりの娘。春樹の彼女。

フラワーショップ「キムラヤ」店内
カオリが入ってくる

カオリ
すみませーん。……あの、すみませーん。

譲二がやってくる

譲二
ああ、はい。

カオリ
あ、こんにちは。

譲二
ああ、いらっしやいませ。

カオリ
こんなところにお花屋さんできてたんですね。

譲二
ええ、そうなんですよ。

カオリ
へー。

譲二
何かお探しですか？

カオリ
ちよつと自分用に。気分変えたいなって思っ
て。

譲二
なるほど。

カオリ
はい。…あの、ちよつと詳しくなくて。選ん
でもらってもいいですか？

譲二
いいですよ、もちろん。好きな色とかあつたら
。

カオリ
緑色。

譲二
緑色。グリーン。あ、グリーンか。

カオリ
あ、ないですか。

譲二
すみません、今ちようど無いかもしれない。

カオリ
ああ、そうなんですか。

譲二
すみません。

カオリ
ああ、残念。

譲二
グリーンの花ね。いつもはあるんだけど。

カオリ あ、違った。

譲二 え？

カオリ あ、違いました。緑って違う違う（笑）違った。

譲二 ああ、違いました？

カオリ 違いました。緑って前の彼が好きだった色なんです。

譲二 ああ。

カオリ はい。

譲二 前の彼。

カオリ はい。だから違った。

譲二 ああ。…それじゃあほかに何かあったらいいんですけど。

カオリ ……。

譲二 なにか、参考になるようなものがあれば、選びやすいんですけど。

カオリ …あれ、でもそれもちよつと違う気がする。

譲二 うん？

カオリ えー、どうですかね？

譲二 おーどうでしょうね…なにが？

カオリ いや、あの私もホントに好きなんです緑色。

譲二 ああ。

カオリ だったらそれを、選ぶべきじゃないかっていう。

譲二 うん。ああ、なるほどね。あ、でも、すいません。ちよつといまなくて、

カオリ え、私も好きなのに前の彼が好きだったからって、それを選ぶのをやめるって何か違う気がします。

譲二 ああ。

カオリ そんなところに負けたくないっていうか。そういうので全然自分の事とか変えたくないですね。

譲二 うん。

カオリ 揺るがない自分を手に入れたっていう気持ちがいま凄く強い。それに今気づきました。

譲二 そうですか。

カオリ はい。…緑の花は、

譲二 無いですよね、丁度。いま。

カオリ ああ。

譲二 うん。あでもあの、ツルみたいな、ツタみたいな奴なら。

カオリ 花が欲しいんですよね。

譲二 そうですよね。

カオリ 家に飾る。

譲二 家に飾る奴だ。そうですね。…でもこの、ツタも意外とね、

カオリ うわ、すいません。

譲二 え？

カオリ いや、今凄く個人的な話をしてしまつて。

譲二 ああ。

カオリ 急になんかすごい恥ずかしい。

譲二 ああ。いやそういうのを聞くのも花屋の仕事ですから。

カオリ ええ、そうなんですか。

譲二 そうなんですよ。

カオリ ああ、じゃあよかった。

譲二 もうね、いくらでも。

カオリ えー(笑)

譲二 えーつて。

カオリ (笑い)

譲二 …気分を変えようっていうのはその、別れたから？

カオリ ああ、はい。

譲二 ああ、最近ですか？

カオリ あ、ついさつき。

譲二 ついさつき？

カオリ その喫茶店で。

譲二 ああ、ついさつきだ。

カオリ はい。ほやほやです。

譲二 なんてまたそんなことに。

カオリ なんか別の女の人を妊娠させちゃったみたいで。

譲二 あらあ。

カオリ はい。

譲二 あらあ。

カオリ ね。あらあしかでてこないですよね。

譲二 それはあれですね、最低の人間ですね。

カオリ それで、私とも別れたくないって言うんですよ。

譲二 すごいやつだな。

カオリ もうなんかわらけてきちゃって。

譲二 それはね。

カオリ アイスミルク飲んでですよ。

譲二 ああ、牛乳？

カオリ 牛乳。牛乳飲んでですよ。彼女に別の女の人妊娠させた話しながら牛乳飲みやがって。それで「別れたくないと思ってるんだ」って。これ。

譲二 挑戦的だな。

カオリ え？

譲二 いや、挑戦してるなと思って。

カオリ ……え？

譲二 挑戦？ なにに？

カオリ あ、いや、

譲二 私に？

カオリ いやそういう事じゃないと思うんですけど。

譲二 じゃあ何に？

カオリ だからその、その場所とか、状況とかに。

譲二 挑戦？

カオリ 挑戦？

譲二 わからないですけど。ごめん、花屋だから僕。

カオリ 挑戦を、されていた？

譲二 いや、あなたに挑戦してたわけじゃないとは思うんですけどね。わからないですけど。さ、何の花にしましょうか？

カオリ 緑色の花ありますか？

譲二 無いんですけどごめんなさい。

カオリ そこをなんとか。

譲二 何とかって言われても無いんです。すいません。じゃあ予約しますか？

カオリ 今欲しいんです。

譲二 そうですよ。今別れてきたんですもんね。それでその気分を変えたいから今欲しいんだもんね。ほんとどうしようかな。

カオリ なんか挑戦されてたと思うたらもう黙ってられないっていうか。なんかさつき緑色を遠慮しそうになってちよつと負けそうになったこととかも、なんていうかふざけるなよっていう気分なんです。

譲二 ううん。

カオリ ここで緑色の花を買えないっていうのは、ちよつとなんていうかダメじゃないですか？ え？ ダメじゃないですか？

譲二 だってでも、無いんだもん。

カオリ どうにかしてください。

譲二 えー。

カオリ 花屋でしょ？ 花を用意できなくて、何が花屋なの？

譲二 じゃあ、知り合いの花屋に聞いてみますね。

カオリ そうしてください。

譲二 そうしてくださいって。

カオリ (見ている)

譲二 じゃあそうしてみますね。

いつのまにか春樹と樹里がカレーを食べながら近くにいる

譲二 (春樹たちに) まあ、それでつきあう事になったんだよね。

春樹 ええ！？

樹里 それ何年前の話？

譲二 まあ、40年前くらい。

樹里 化石みたいな話だな。

譲二 化石って…ひどいことを言うな。カオリちゃんありがとう。

カオリ あ、全然。楽しかったです。(エプロンをつけだす)

春樹 なにこれ、恋の話だったの？

カオリ 譲二さんの、大恋愛の話。

譲二 いや、大恋愛とかじゃないんだけど、ただの、昔話だよ。

春樹 マジで？ 変な話だな。

樹里 変な話なのよ。

譲二 変な話じゃないよ？ “恋の話”だよ。

春樹 うるせえな。

樹里 変な話なんだよ？ 変な女に恋した話っていうのはね、変な話なの。

譲二 変な女ってさあ。

樹里 変な女じゃん。あれは、変な女でしょ？ 彼氏と別れたその足で自分用の花買う女だよ？ 変な女だよ。

カオリ 素敵な話じゃないですか。

樹里 全然素敵じゃない。変な女だね。

譲二 そんな変な女変な女言うなよ。樹里ちゃんのお母さんの話なんだから。

春樹 ええ？

譲二 樹里ちゃんのお母さんの話だよ？

春樹 そうなの？ 今のが？ お母さん？

カオリ そうなんですって。びっくりですよね。

春樹 (譲二に) え、お父さん？

樹里 おいおい、やめてよ。

譲二 違う違う。昔ちよっとだけ恋人だったって話だから。

春樹 え、樹里ちゃんのお母さんと？

譲二 そうそう。そういう話。

春樹 なにそれ。

カオリ 樹里さんのお母さんが会いに来るみたいで、話聞いてたら、どうやらそうみたいだって。

譲二 なんか記憶の扉が開いちゃって。

樹里 開いちゃってじゃないんだよ。母親の恋の話見せられるとは思ってなかったわ。

カオリ プレッシヤーでした。

樹里 しかも相手が譲二って。

譲二 なんだよ。

樹里 だってただのロクデナシじゃん。

譲二 ロクデナシって言われちゃったよ。

カオリ うちの従業員を馬鹿にするのはやめてください。

樹里 花切るしか能のないロクデナシじゃん。この年で独身で、競輪と競艇をしたいけど金が無いから見てるだけで満足して。友達が春樹だよ？

譲二 一番の親友。

春樹 出会って三ヶ月。

樹里 ろくでもない。

春樹 彼氏彼氏。

樹里 いないのほかに？ 昔からの友達。偉くなった社長とか、弁護士とかさ。そういうなんか実のある友達とかいないの？

譲二 ……いない。……みんな離れていってしまったよ。

カオリ ああ、もう哀愁がでちゃうから。

譲二 いいよいいよ、ほらもうあとは死ぬだけだから。

カオリ ああ、樹里さん。

樹里 めんどくさい。

譲二 めんどくさいよねー。ごめんごめん。いまめんどくさいおじいちゃんだね。もー、めんどくさいおじいちゃんて、めんどくさいね。

樹里 そんなお爺ちゃんて年でもないでしょ。

譲二 いやいやおじいちゃんおじいちゃん。もう、おじいちゃん。

樹里 まだ65才でしょ？

譲二 もう65才だよ。

樹里 全然元氣じゃん。

譲二 死ぬやつは死ぬ年だよ。俺も明日きつと死ぬんだよ。やめろよ。

カオリ もう譲二さんは死なない。100才まで生きる。

譲二 それはそれで、ちよつと嫌だよ。

春樹 ていうかさ、樹里ちゃんお母さんとかいたんだ。

譲二 いるだろそりゃ。樹里ちゃんを何だと思ってるんだよ。

カオリ 春樹さん知らなかったの？

譲二 彼氏だろお前。

春樹 いやだって聞いたことないからそんなの。俺いないし母親とか。

譲二 悲しい話をいきなり言うな。

春樹 別に悲しい話とかじゃないけど。

カオリ 春樹さん。春樹さんにお母さんがいなくても、他の人みんながお母さんがいないわけじゃないんです。

春樹 わかってるよそれは。伝えなきゃみたいな感じで伝えるのやめて。そうじゃなくて、そういう雰囲気だしてなかったの樹里ちゃん。

家族の話とかも聞いたことないし。そういうなんかあったかい気配一ミリも無かったよ？

譲二 なんだよあったかい気配って。

春樹 だからそういう家族があるあたたかさっていうの？ 戻れる場所があるみたいなさ。俺たちにはルーツがあるんだっていう、なんか

足場がどつしりしてる感じ？ まったくなかったよ。生まれたての小鹿みたいに必死に立ってたんだから。ドヤ街の路地裏でゲ

ロまみれになって。そこを好きになったんだから。

春樹。

まあ、どういう状況で出会ったのか気になる所だけれど、そんな樹里ちゃんにもお母さんはいるんだよ。残念だけど。

春樹 いや、別に残念じゃないけどさ。意外だったっていう話。母親なんていた方がいいに決まってるんだから。

カオリ 春樹さん。そんな事無いよ。

春樹 え？

カオリ ごめんね春樹さん。やつぱりそういう理想を持つてるって事は素晴らしいことだと思うんだけど、でもねそうじゃないこともある。

家族はあったかいだとか、母親はいた方がいいだとかそんな状況ではこの世界はもうないんだ。

春樹 カオリちゃん？

カオリ われわれは荒野の中ひとりぼっちで生きていかなくはいけない。そういう世界に私たちは生きています。
春樹 カオリちゃん。
カオリ でも、いつまでも希望を持つことはとても大事な事なんだよね。…ね？

カオリ去る

春樹 カオリちゃん。

樹里 どうしちゃったのよあの子。

譲二 最近たかお君とうまくいってないんだよ。

樹里 え、そうなの？ おしどり夫婦が。なんで？

譲二 この花屋あんまうまくいってないんだよ。それでたかおくんがなんか新しいことはじめようとしてて、それでいろいろぶつかっちゃって。

樹里 へー。

譲二 このカレーもそうだよな。

春樹 ああ、うん。なんか植物の種を混ぜてるらしいよ。

樹里 植物の種？

春樹 植物の種をすりつぶしてカレーに混ぜてんの。クリーミーになんだって。

樹里 それをここで出そうとしてんの？

春樹 花屋で出すカレーだから、なんか花屋っぽいほうがいいんじゃないかねえかって。

樹里 そもそも花屋でカレーは出さないんだよね。

譲二 まあ、そういうのに挑戦しようとしているたかお君と、意味が分からないカオリちゃんとぶつかっちゃってるんだな。

樹里 ふーん、大変だ。

譲二 じゃあそろそろ。

樹里 ああ、マジで行くの？

譲二 びっくりするかな？

樹里 ま、そりゃびっくりするだろうけどさ、なんか気持ち悪いね。

譲二 なにが？

樹里　なんかサプライズ？　してやろうっていうそのサービス心が気持ち悪い。

春樹　むかえに行くの、お母さん？

樹里　ぜひ行かせてくれって。

讓二　是非とは言ってないだろ。よかつたら行こうかって言ったんだよ。

樹里　気持ち悪い。

讓二　なんでよ。

春樹　ていうかなんでお母さん会いくんの？　会いに来るんでしょ樹里ちゃんに？

樹里　……。

春樹　え？

樹里　あんた先月なにしたんだよ？

春樹　…プロポーズ！　ああ、結婚するからか。

樹里　結婚するからだよ。

春樹　え、じゃ俺が会うの？　お母さんと？　マジで？

樹里　いや、別に会う必要ないけどさ。ま、会う事になんじやない？

春樹　へー。新鮮。

樹里　大丈夫かなマジで。

讓二　まあ、みどりさんも変わり者だから。変わり者同士気が合うんじゃない？　じゃあちよつと行ってくる。よろしく。

讓二去る

春樹　みどりさんって？

樹里　お母さんだよ。わかるでしょ。

春樹　ああ。……え、じゃあ、お母さん自分の名前と同じ色好きって言ったの？

樹里　え？

春樹　ほらさつき。グリーンが好きって言ってたじゃん。

樹里　ああ、ほんとだ。やっぱ変なんだよあの人。

春樹 いいじゃん。俺好きよ結構。

樹里 やめてマジでやだわ。なんか気が合いそうなのが嫌だ。

春樹 嫌いななの？

樹里 いや、嫌いっていうかよくわかんない。なんかあたしが家出てから手が離れたからとか言っつて、自転車買っているらなとこブラブラぶらぶらしてんの。

春樹 何、散歩？

樹里 最初はそういう感じだったんだけどなんかエスカレーターして、すぐ県とかまたぎでした。

春樹 自転車？

樹里 何か行けるとこまで行って帰ってきてツていうのを繰り返して、そんでいきなり飽きた。

春樹 自転車？

樹里 それでバイクの免許取ろうとしたから、危ないからやめろつつつたら喧嘩になったからそれからあんまり何してんのか知らない。

春樹 なんかさういう、趣味見つけようとかって事じゃないの？

樹里 いや、なんかさういう前向きな感じじゃないんだよね。もっとなんつうかドロツとしてる感じ。

春樹 あーわかんないわ。

樹里 あたしもわかんないから。

春樹 ああ。つていうかさつきの話、譲二あれ未練とかなのかな？

樹里 え？

春樹 いやあんな、40年前の事なんか普通覚えてないんじゃないの？ あんな事細かに出会った時の事覚えてて、未練あるつていう事

樹里 なの、あれ？

春樹 ああー、まあ未練とかじゃないんじゃない？

樹里 なに、じゃあ？

春樹 だから、未練とかじゃないけど、それだけ好きだったつて事じゃないの？ うわ、自分で言っつてて気持ち悪い。

春樹 わかんねえなー。40年も一人の女のこと覚えてることなんてあるかね？

樹里 ……結婚すんだよねえ？

春樹 え？

樹里 あたしと。

春樹 するよ。しないの？

樹里 どうしようかな。
春樹 なんて、しようよ？
樹里 まあ、そうやってバーベキューでもする感じで誘ってくるところは評価できるけどねえ。
春樹 はは。…つていうかさあ、このカレーまずくない？
樹里 まずいねえ。

樹里、春樹去る

別の所に、カオリ、カレー皿を持って苦々しい顔

カオリ (カレー皿を見て)……。

たかお入って来る

たかお あ、どうそれ？ カレー。
カオリ ……。
たかお 何その顔？ え、うそ？ まずい？
カオリ ……まずいよ。
たかお うそお？ うまいじゃん。
カオリ 嘘でしょ？
たかお 美味しいじゃん。クリーミー。
カオリ そうなんだ。…もう、ご飯作りたくない。
たかお ……なんで？
カオリ ……たかおさんが、このカレーを美味しいと思うんだったら、私が作ったご飯を美味しいって言うてくれることの意味が違ってき
ちやうから。…だから、ご飯作りたくない。
たかお ……どういう意味？
カオリ だから、また私が料理作って、たかおさんが美味しい美味しいって言いながら食べるでしょ？ でもそれを見る時のあたしは、あ

たかお あ、でもこの人の舌って腐ってたんだよな、え、じゃああたしの料理も腐ってるの？ って思っちゃうって事。
たかお …腐ってないと思うけどなあ。

カオリ (ため息)

たかお え？

カオリ …あのさ、私考えてるからね。

たかお …なにを？

カオリ 離婚。

たかお 離婚？ え、なんで？ …いやいや、それはさすがに結論にすぐ飛びつきすぎだつて。こういうのはさ、風みたいなものじゃない。

カオリ 今は確かにうまくいってないけど、でもすぐ元通りになるつて。大丈夫だつて。

たかお なんて、花屋の経営がうまくいってない時にカレーを売ろうと思うの？

カオリ だから、新しいことをやろうと思つて。

新しいことつてなんか通販とかじゃないの？ それとか定期的に買ってくれるお店と契約するとかさあ、何でカレー売ろうと思つ
のよ？

たかお いや、あるじゃんほら。花屋と肉屋一緒にやつてるところ。

カオリ ……なにそれ？

たかお あるんだつて花屋と肉屋一緒にやつてるところ。花屋の奥に肉屋があんだよ。それだよ。

カオリ ……どれよ？

たかお ……夢だつたんだよ。俺言つたことあるよね？ 飲食店やるの昔からの夢だつたんだよ。

カオリ 言つてたね。でもね、そういう夢とかつていうのはもつとこう順調な時に見るものでしょ？ うまくいってる時に新たなステップ

として踏みものでしょ？ 今やる事じゃないんだつて。

違う違うそうじゃないよ。

カオリ 違う違うそうじゃないよ？

夢とかね、希望つていうものはね、最悪な時にこそ持つてないとダメなんだつて。それが、「未来がよくなる」つていう事につなが
るんだから。そんなの何も持たずに、現状維持だけを目的に生きているやつなんてね、動物と一緒にだからね。俺たちは動物じゃない
じゃん。人間じゃん。

カオリ ……。

たかお だから、そのうまく言えないけど。守つたり、踏みとどまるつていうタイミングじゃないんだよ。いまは。それはわかるの俺は。

カオリ わたしにはわからない、それは。

たかお だからこれはタイミングだから。あ、でも、「俺の人生のタイミング」だから、それは勿論、俺のタイミングではあるんだけど。でもそれは、一緒だからね。夫婦なんだから。俺のタイミングは、カオリのタイミングでもあるからね。だからこれは、カオリの人生のタイミングなんだよ。

カオリ ……人生のタイミング？

たかお なんかそういう時じゃん今って。

カオリ 人生のタイミング。

たかお ……どうした？

カオリ いや、ううん。やっぱり今って人生のタイミングなんだなって思ってた。

たかお ……今カオリが思ってる人生のタイミングの話がしたかったわけじゃないよ俺は。

カオリ そうかな？ 私は、今たかおさんが話してる話と、私が考えてる話っていうのはおんなじ話だと思うよ。

たかお 違うよ。俺はいいタイミングの話してる。でもカオリは悪いタイミングの話してる。これは違うよ？

カオリ うーん、でもさ、いい悪いっていうのは裏表じゃない？ それは、両面じゃん。

たかお りようめん？

カオリ だからね、例えば松岡修造が美味しそうにカニを食べてるとして、それは松岡修造にとってはいいことでしょ？

たかお そうだね。

カオリ でもね、その松岡修造にとってのいいことは、食べられてるカニとか、そのカニの帰りを家で待ってるカニの家族にとっては、悪いことなんだよ。

たかお ああ。

カオリ 両面なんだね。

たかお ごめん、何言ってるんだろう？

カオリ だからね、たかおさんにとってのいいことが、私にとっていいことじゃないように、たかおさんにとって悪く見えることが、わたしにとっても悪いって事とは限らない。たかおさんが美味しそうに見ているそのカニを見ても、私には美味しそうには見えないうし、そのカニがほんとうは私なのかもしれない。

たかお (困りながら) いつのまにかカニに。

カオリ ……昔は、一緒に美味しそうだなって思ってたのに、いつの間にか私だけ美味しそうに見えなくなっちゃったんだよ。…おんなじカニを食べて美味しく思えないって事と、たかおさんがいいタイミングだなって思ってるのに、私にはそう思えないって事が、混ざ

たかお ……昔は、一緒に美味しそうだなって思ってたのに、いつの間にか私だけ美味しそうに見えなくなっちゃったんだよ。…おんなじカニを食べて美味しく思えないって事と、たかおさんがいいタイミングだなって思ってるのに、私にはそう思えないって事が、混ざ

たかお
つて一緒になつて、本当は一個一個整理をつければ解決する話なのかもしれないけど、でもそんなのそんな簡単にはできないじゃん。…このカレーが美味しいとは思えないって事が、これから全部がうまくいかないんじゃないかって事と結びついちゃったの。だから、私はたかおさんがこのカレーを美味しいじゃん、って言ったことに今凄く、絶望してるよ。

待ってよ。待って待って。なんでそんな事になるの？ だって、カレーがまずかったってだけでよ。それだけでさ、そんな極端に何かを決めるっていうのはそれは、やりすぎだよ。カレーもそんなの荷が重いと思うよ。

カオリ
それがタイミングなんじゃないの？
そんなことないよ。

たかお
それが私のタイミングなんだと思うよ？

カオリ
だからそれを、お互いのタイミングをね、持ち寄って、探りあってみようよ。お互いの、ね。うまく合うタイミングをさ。

カオリ
……。

たかお
カオリ。

カオリ
…タイミングって何？

たかお
…配達の仕事があつたね。

カオリ
逃げないでよお。

たかお
逃げない逃げない。何から逃げるんだよ？

カオリ
笑うのだけやめて。

たかお
……。

たかお出ていく

カオリ
ちよつと！

カオリも去る

駅前

みどりがいる

みどり
……。

譲二がやってきて、後ろから近寄り声をかける

譲二
よ。

みどり
……。

譲二
よ。

みどり
……あ、すいません。

譲二
うん？

みどり
違うんです。

譲二
え？

みどり
違うんですよ。別に取ったわけじゃなくて。

譲二
え？

みどり
だから、違うんですよ、その、ほら、わかりにくいから機械のレジが。あれだってみんなほら自分でやってるでしょ。自分で。それでだって、通したと思ったんですけどね。

譲二
ああ。

みどり
通ってなかったのかもしれない。

譲二
ああ。

みどり
はい。

譲二
あ、違う違う。ほら、おれおれ。

みどり
ほら、おれおれ。……はい。

譲二
いや、はいとかじゃなくて、俺だって。譲二。秦。

みどり
はた？ じょうじ？ ボクサー？

譲二
いや違うよ。ボクサー？

みどり
警備員じゃなくて？

譲二
警備員？

みどり
私服の警備員じゃなくて？

譲二 違うよ。

みどり なんだ。そうなんだ。…じゃあ誰なんでしょう？

譲二 いやだから、譲二だってば。みどり、さんでしょ？

みどり え？ はい。

譲二 うん、そうだ。うん。…久しぶり。

みどり ……いや、外国の方とは

譲二 日本人だよ。何言ってるの？ 覚えてないの。

みどり いや、覚えてます覚えてます。覚えてる。譲二譲二。

譲二 いいよ、覚えてないもの。なんだよ、覚えてないの？ ほんとに？

みどり 覚えてるって。

譲二 覚えてないんだよなあ。ショックだよ。…ああ、結構ショックだなこれ。

みどり ……何年ぐらい前の？

譲二 40年前くらい。

みどり 40年前かあ。

譲二 ……恋人。

みどり 恋人？ だれが？

譲二 だから、おれが。

みどり あたしの？

譲二 そう。

みどり ……えー？

譲二 いやほんとだよ？

みどり 好きだったとかじゃなくて？

譲二 違うって、ちゃんとほら、つきあってたよ。

みどり あたしと？

譲二 そう。

みどり あなた？

譲二 そう。

みどり ……えー？

譲二 なんでえ？

みどり 付き合うかなあ？

譲二 つきあつてたよ。なんだよ、もう。

みどり タイプじゃないなあ。

譲二 ……っていうかなに？ 万引きしたの？

みどり してない。

譲二 してたじゃん。したんでしょ？

みどり だから、万引きじゃないです。間違えてレジを通らなかったのかもしれない。

譲二 それを万引きって言うんだよ。なんだよ、万引き。そんな感じになってるの？

みどり してないよ？

譲二 いいよもう、あとで言つとくから。なんか思つてたやつと違うなあ。

みどり あの、何か御用が？

譲二 うん、あの、樹里ちゃんの代理で。

みどり ああ、樹里の。え？ 樹里の？

譲二 うん？

みどり 樹里の旦那さん？

譲二 違う違う。

みどり あ、違う？

譲二 違うよそれはさすがに。ほら、知り合いでね。でお母さんがみどりちゃんだつて言うから。ちょっと代わりにね来てみたつていう。

みどり ああ、なんだ、あたしとつきあえなかつたから娘に手を出したのかと思つた。

譲二 ……なんてこと言うの。つきあつてたつて。恋人だつたでしょ？

みどり いや、つきあつてはなかつたでしょ？

譲二 つきあつてたよ。

みどり いや、付き合うつて言葉にしなかつたでしょ、あなた。譲二君。

譲二 え？

みどり つきあうつていう、契約みたいな事はしなかつたでしょ？一回も。

譲二 ……いつ思い出したの。
みどり なんか、なんとなく。

譲二 ……言つてよ。

みどり ……（なんか笑えてくる）久しぶりだね。

譲二 久しぶりだよ。もう。なんか恥ずかしいな。

みどり いや、こつちもすごい恥ずかしい。凄く会いたくないタイミングで会っちゃった感じがする。

譲二 そうだね。

みどり そっかあ。譲二君かあ。

譲二 なに。

みどり いや、会う事無いと思つてたもう。

譲二 ああ、確かに。

みどり ……うわ、譲二君だ。

譲二 なんだよ、嬉しくないの？

みどり なにそれ？（笑）

譲二 だから、嬉しくないのかつて。

みどり あははっ。

譲二 嬉しくないんだねっ。

みどり 嬉しいよ。うれしいうれしい。わあうれしい。
もう。

譲二 あ、樹里待つてるんだっけ？

みどり ああ、うん、働いてる花屋で待つてるから。

譲二 え、樹里の？

みどり いや、おれの。

譲二 なんだ？

譲二 いや、花屋で出会ったんだよつて話をしたらなんかそんな事に。

みどり 何そんな話したの？ 気持ち悪い。

譲二 うるさいなあ。

みどり　ていうかまだ花屋で働いてるんだ？

譲二　うん。

みどり　そんなずっと花屋で働いてたらさ、それもう譲二君は、花そのものになってるんじゃない？

譲二　…何言ってるんだよ。

譲二、みどり去る

「キムラヤ」店内

春樹、樹里でできて

春樹　え、お母さんはさ譲二と別れた後、すぐ結婚したって事？

樹里　うん、多分ね。譲二がいま65とかでしょ？　40年前つつつたから20そこらじゃん。結婚したのが25とか言ってたから、多

分そうなんじゃない。

春樹　はー。

樹里　え、譲二って一回も結婚してないんだっけ？

春樹　多分ね。

樹里　バツついているとかじゃなくて？

春樹　いや、してないでしょあれは。

樹里　なんか、譲二って甲斐性ないように見えて、実はあるのかと思ってた。

春樹　甲斐性無いように見えて実はあるんじゃないかと見せて本当になんか遠い目をするじゃん。時々、遠い目をして、何も無い人生だったよ、とか言うじゃん。

樹里　ああ。

春樹　あれ、ほんとになんもないからな。遠い目してるからさ、あ、実はこんな事言いながらも、いろんな大変な過去があったんだろうな
って思っちゃうけど、ホントになんもないんだよ。こっちにそう思わせようとしてるだけなんだよ。

樹里　65年生きてなんもないことなんてあんの？

春樹　なんもないんだよ。それが譲二なんだな。

樹里　ああ、だからなのかな。

春樹 え？

樹里 いや、嬉しそうだったじゃん。お母さん迎えに行くのとか、昔の話してる時とか。

春樹 ああ。

樹里 それが65年の人生の、唯一の素敵な思い出なのかもね。

春樹 ああ。

樹里 なんか、優しくしよ。

春樹 え、お母さんの方はさどうなのよ？

樹里 なにが？

春樹 いや覚えてんのかな、譲二の事。

樹里 あーいやどうかな、聞いたことないけどね。

春樹 あーでも、覚えてないってのもあれか、いいか。

樹里 え？

春樹 いや覚えてないってのもまた盛り上がるきっかけになるか。覚えてなくて40年ぶりに再会してまたくつつくつってのも夢があるな。

樹里 いやくつつかないだろ。

春樹 なんて、わかんないじゃん。

樹里 いやまだうち父親もいるしさ。

春樹 ええ？

樹里 ええ？

春樹 いんの父親？

樹里 いるよそりゃ。いるでしょ。

春樹 なんだよ、全部いんのかよ。フルコースだなお前。

樹里 なにが？

春樹 いやもう絶対捨てられてるのかと思ってたわ。

樹里 なんか理想が勝手に育ってるけど。そんなんじゃないからね悪いけど。

春樹 ああいや、まあ全然悪くないよ。斬新だよ。

樹里 何が斬新なんだよ。

春樹 いや、だって結婚したらさ俺にも父親とか母親ができるって話じゃん。これは斬新だよ？

樹里 いやあなたの父親とか母親になるわけじゃないよ？
春樹 なんでよ？
樹里 なんでって。

カオリが不穩にいる

カオリ 結婚？

樹里 え？

カオリ 結婚するの？

春樹 どうしたどうした？

カオリ やめたほうがいいんじゃないかな？

樹里 なにあんた、どうしたのよ。

春樹 どうした？ おなか痛いのか？ どうした？

カオリ 結婚してもいいことなんか一つもないですよ。

樹里 凄いいこと言うな。なに？ たかおさん？

カオリ たかおさん。いやな名前。山かよ。

春樹 おいおい、どうしちゃったのよ？ なんかあったか？ うん？

カオリ もうね、終わりです。

春樹 おわり？

カオリ もう終わり。全部おしまい。未来なんてない。

春樹 そんな悲しいこと言うなよ。

カオリ ないですよ？ 未来なんて。結婚なんかしても幸せなんて訪れないから。犬がいて？ 芝生の庭で子供たちが遊んで、冬は暖炉で

あつたまってる子供を見ながら揺れるイスに座ってまどろむ未来なんて訪れないですから。

樹里 アメリカなの？

カオリ ただただ残酷な現実があるだけ。ここは、現実だ。

樹里 現実だよ。

春樹 なんかあったなら言ってみ、ほら？ 相談乗るから。俺ら家族みたいなもんじゃん？

樹里 え、そうなの？

春樹 そうだよ。俺が仕入れた花を、たかお君たちが買って、それを売ってんだから。みんながみんなを支えあって生きてんだから。俺らは家族みたいなもんなんだよ。

カオリ 大丈夫です。

春樹 言ってみろってほら。なに、たかお君と喧嘩したの？ そんなん大丈夫だって。すぐ仲直りできるよ。あいつほら、単純じゃん。シンプルな馬鹿じゃん。だから、大丈夫だから。

樹里 いや、多分ねそのシンプルな馬鹿ってところが問題なんだと思うんだけどね。

春樹 え？

カオリ いいんですいんですほんとにもう。大丈夫ですから。

春樹 大丈夫じゃないだろ。

樹里 そうだよ。大丈夫じゃないから来たんじゃないの？ 話聞いてほしいんでしょ？ 話聞いてほしいさが凄いでたよ。

カオリ だって、なんか違うんだもん。

樹里 なにが？

カオリ 人間の種類が違うもん。わかんないですよどうせ。

樹里 なによそれ。

カオリ だからほら、春樹さんって真っ直ぐだから。真っ直ぐに真正面から物事を受け止めるタイプの人間でしょ？

春樹 タイプ？ なに？

カオリ 目標とかがあったらそれを目指して走っていけるタイプの人じゃん、全速力で。

春樹 わかんないよ、なに？

カオリ だからバーベキューとかするじゃん？ 好きじゃん、バーベキュー。

春樹 ああ、好きだね。

カオリ ほら。あたし意味わからなかったもん。夏に急にバーベキューするぞって誘われて意味わからなかったもん。川でお肉焼いて、何が楽しいの？

春樹 楽しいじゃん。

カオリ わかんない、わかんない。そんなページない。見たことない、そんな人。

樹里 いや、まあいっばいいると思うし、あんたがさっき言ってたアメリカの夢と一緒にような気もするけどね。

カオリ わあ、全然違う！

樹里 ああ、ごめん。

カオリ だからね、そんなね、そんな川でお肉焼いて楽しめる人には、わからない事なんですこれは。

春樹 何の話してんだよこれ。

樹里 全然わかんない。

カオリ 樹里さんはいいですよ。どっちも楽しめるんだから。

樹里 なによ。

カオリ 樹里さんはこっち側だと思ってたけどね。外見そっち側だけど実はこっち側の人だと思ってたけど、結局、どっちも自由に行き来できてるんだ。一番ずるい。

樹里 別にそんな事無いけどさ。

春樹 わかんないなあ。何の話してんだこれ。今川にいんのか俺らは？

樹里 え？

春樹 こっちがわとかそっちがわとか。川の、岸辺の話これ？ 川を挟んでんの？

樹里 …うん、まあある意味そうだね。

春樹 そうなの？

カオリ わかんないんですよだから、春樹さんには。わかんなくていいですし。そのままでもいい。そのままの春樹さんが一番素敵だ。

春樹 ああ、ありがとね。でもな、カオリちゃんそれは違うんじゃない？

カオリ 何がですか？

春樹 だから人間てさ、タイプとか種類じゃないだろ？ みんなそれぞれだろ。

カオリ …まともな事言わないでよ！

春樹 ごめんごめん、まあわかんないけどさ。でもさ、元気出してよ。ほらじゃあさ、あとでみんなで焼肉食いに行こ。樹里ちゃんのお母さんも来るしさ、みんなで焼肉食いに行こ。元気出るから。

カオリ …だからなんでお肉を食べさせようとするの？

春樹 結婚してもいいことないなんて言うけどさ、そんな事無いと思うよ。だってさ、俺に家族できんだよ。いままで、一人ぼっちだったのにさ新しく親までできるの。最高じゃないこれ？

樹里 だから、あんたの親じゃないから。

春樹 なんてよ、結婚するって事はそういう事じゃないの？ あれだったらさ、一緒に住もうよ。みんなで一緒に住んじゃえばいいじゃ

ん。な？　おう、それでさ、カオリちゃんたちとも家族ぐるみ付き合いつて言うの？　そんなんやつてさ旅行とか行こうぜ。譲二も連れて。おう、それで、なんかみんな一緒に悩んだり、笑ったり困ったりしようよ。なんだそれ？　最高じゃん。おう、最高じゃんそれ。

カオリ

…なんですかそれ。

春樹

最高だよ。

樹里

え、ほんとになにそれ？

春樹

え？

樹里

なによそれ。

暗転　音楽

路上のベンチ

みどりとたかおがいる

みどり

譲二君の働いているお花屋さんの店長？

たかお

あ、はい。

みどり

へー。

たかお

…なんですか？

みどり

どうなの？

たかお

…なにがでしよう？

みどり

譲二君。ちゃんと働いてる？

たかお

ああ、はい、それは勿論です。

みどり

もちろん？

たかお

すごく、頑張っていたみたいです。

みどり

嘘でしょ？

たかお

いや、ほんとですよ。

みどり

頑張るのとか一番向いてない人だったよ、あの人。

たかお いや、そんな事無いと思いますけど。
みどり レジのお金とか抜かれたりしてない？
たかお いや大丈夫だと思えますけどね。

みどり ちゃんと調べた方がいいよ。
たかお ああ、はい。

みどり ほんとに。帰ったら調べなさい。
たかお はい。でもほんとに、頼りにさせてもらってます。

みどり それは嘘。
たかお いやいや嘘じゃないですよ。

みどり そんなはずない。
たかお いや、ほんとですよ。あ、この前商店街でお祭りがあつたんです。

みどり お祭り？
たかお はい。それで、うちでもなんかできないかって譲二さんが考えてくれて、子供たちにひまわりの花を好きだけ持ってっていいよー

みどり っつてやったんです。
あら。

たかお はい、子供たちはみんな喜んでました。みんな手にはひまわりの花を持ちながらお祭りを楽しんでいて。でも知ってます？ ひまわ

みどり りの花の花言葉って「情熱」とか「憧れ」とかもあるんですけど、「いつわりの金持ち」っていう意味もあるんです。……はい。
……どうい話なのそれは。

(みどりを見ている)

(見られているので) なによっ？

……40年前の恋人ですか。

……なによ？

あ、ぼくまだ、配達残ってるんで。

譲二が缶ジュースを持って来る

譲二 あ、ごめんごめんたかお君。缶コーヒーでいいか？

たかお

あ、いやでも配達まだあるんで。

譲二

そんなの持ってきやいだろ。はい。

たかお

ああ、そうですね。

譲二

(みどりに) はい、じゃあこれ。

みどり

(受け取って) ありがと。…なんでおしるこ？

譲二

(嬉しそうに) お汁粉。

みどり

うん、なんでお汁粉？

譲二

…。

みどり

え、なんでお汁粉なの？

譲二

何も覚えてないな。

みどり

え？

譲二

お汁粉を渡すっていう冗談だったじゃない。

みどり

え？

譲二

だから、ジュース買いに行ったのに、お汁粉を買ってくるっていうやつ。やってたじゃん。もう覚えてないなあ。

みどり

…ああ。

たかお

…何が面白いんですかそれは？

譲二

(少し怒気を含み) 面白いだろ。

たかお

すいません。

譲二

行けよ早く、配達に。

たかお

はい、行きます。あ、それじゃあ。

みどり

あ、はい。

たかお

あ、そうだ、譲二さん。

譲二

うん？

たかお

…あ、いや、なんでもないです。

譲二

なに？

たかお

いや、あの…、あ、やっぱりなんでもないです。(笑)

譲二

なんだよ。笑うなよ。

たかお いやいや、今聞くことじゃない気がする。

譲二 ええ？

たかお いや、すみません。また明日にでも聞きます。

譲二 ああ。そうなんだ。

たかお はい。

譲二 あ、でも明日は来ないかもしれない。

たかお ええ？

譲二 いや、今ふと思ったんだけど、俺に明日は来ないかもしれない。

たかお ……来ますよ。

譲二 来るかな。

たかお 来るでしょ。何言ってるんですか。

譲二 わかんないぞ。

たかお なんで？

譲二 わかんない。

たかお だからなんですか？

みどり いい事があったから。

たかお え？

みどり 今日とても幸せな事があったから、こんな幸運に恵まれちゃったらもしかしたら明日は来ないんじゃないかって思ってるの。

たかお いい事？ なんですか？

譲二 ……。

たかお え、なんですか？

みどり 私と再会したこと。

たかお うわ。

譲二 違うよ。うわってなんだよ。

たかお ああ、すみません。

みどり えーだってそうでしょ？

譲二 全然違うよ何言ってるんだよ。

みどり そうだよ。

譲二 そうだよってどういう事だよ。

みどり だから私と再会できたから、譲二君には明日は来ないんだよ？

譲二 え、来ないの？

みどり 来ない来ない。

譲二 みどりちゃんと40年ぶりに会えたから？

みどり 私と40年ぶりに会えたから。譲二君には明日は来ない。

譲二 えー？ じゃあ、火葬場の手続きしないとイケないね。

みどり うん。しつかり焼いてもらおう。

たかお 悲しいですよ。やめてください。配達行ってきます。

譲二 たかおくん。

たかお はい。

譲二 ざまあみろ。

たかお 何がですか。行ってきます。

譲二 おい、何だったんだよ結局。

たかお ああ、、、譲二さん、前の仕事ってビルの清掃やってたんでしたよね？

譲二 え？ ああ、うん。

たかお じゃあ、大丈夫ですね。わかりました。

譲二 なにが？

たかお 行ってきます。

譲二 行ってらっしゃい。

たかお、会釈して去る

みどり なんか、気味が悪い人だね。

譲二 そうなんだよ。いや、そんな事ないよ。お世話になってんだから。いいヤツだよ。

みどり どころが？

譲二 どこって……。うん。

みどり ……お花屋さんじゃなかったんだね。

譲二 え？

みどり ずっとお花屋さんだったわけじゃないんだ？

譲二 まあ、30歳過ぎたぐらいで店ダメになっちゃったから一回やめて、まあ、それでいろんな仕事したかな。

みどり へえ。

譲二 うん。

みどり それでまたはじめたの？

譲二 まあ、雇ってもらってるだけだけど。

みどり ああ。

譲二 ねえ、どこか喫茶店でも入らない？

みどり えー。

譲二 おごるよ。

みどり いいよ、そんな。やめてよ。

譲二 でもな、こんな道端で缶コーヒー飲むなんて。

みどり 昔はよくしてたじゃない。

譲二 覚えてないだろ。

みどり 覚えてるよ。……なんか、譲二君さ、

譲二 なに？

みどり 老けたね。

譲二 お互い様だろそれは。

みどり まあ、そうなんだけどさ。よくわかったね。40年ぶりでしょ？

譲二 ああ、樹里ちゃんから写真見せてもらってたから。

みどり なんだ。見せてもらってたの？ なんだ。

譲二 ……いやでも、わかるよ。わかったと思うよ。見せてもらってなくても。

みどり え？

譲二 だから、別に見ただけでわかるよ、それは。

みどり ……え？

譲二 もういいよ。そっちはでも、わかんなかったじゃない。

みどり 普通わかんないよ40年たってたら。わかる方が気持ち悪いと思うよ。

譲二 ……。

みどり このお汁粉も。よく覚えてるわほんとに。

譲二 悪かったね。

みどり 昔は、何一つ覚えてなかったのに。

譲二 え？

みどり ほら誕生日とか全然覚えてくれなかったでしょ。2年ぐらいはずっとあやふやだった。

譲二 そうだっけ？

みどり そうだよ。あたしの友達の名前とかも全然覚えられないからあたしが友達の話とかすると、毎回その説明から入らなきゃいけな

みどり ったし。

譲二

みどり ああ。ほら自分のお父さんの命日とかも覚えてなかったじゃない。

譲二

みどり ああ。一回置き去りにされたことあったよね？

譲二

みどり え？ なんかの映画見た帰り、トイレ行ってくるからって戻ってきたら譲二君いなくて、そのまま家に帰っちゃってたでしょ。

譲二 そんな事あった？

みどり あったよ。見た映画に凄い感動して、あたしの事忘れて帰っちゃったこと。びっくりしたもん。

譲二 覚えてないな。

みどり 都合の悪いことは覚えてないんだから。何だったかなあの映画。凄く面白がってたんだけどな。なんだったかな。

譲二 ……ねえ、何で万引きなんかしたの？

みどり ええ？ ああ、いやなんとなくよなんとなく。それよりほら、どんな人なの？

譲二

みどり え？ ほら、樹里ちゃんの旦那さん。

譲二 ああ、いや俺の友達なんだけど。

みどり え、そんなお爺ちゃんなの？

譲二 違うよ。春樹君は若いよ。40手前ぐらいじゃないか。お爺ちゃんで。

みどり ああ、ごめんごめん。…春樹さん。どんな人？

譲二 ええ？

みどり どんな人よ。

譲二 どんな人って、いい人だよ。

みどり いい人？

譲二 なんか正直な奴だよ。裏表がないってというか、こう例えば鳥の大群が前から向かってきても避けようとしなくて、全部ぶつかって歩

くだろうなっていうようなやつだよ。

みどり …避けた方がいいんじゃないそれは？

それだけ真っ直ぐな奴っていうかね。仕事は花の仕入れ屋をやってる。

みどり へー。

譲二 あとは、親がないな。

みどり それを聞いてどう反応すればいいのよ。

譲二 だからすごく大事にしてくれると思うよ、樹里ちゃんの事。

みどり そうかな？ …まあ、何だかっていいんだけどね。樹里ちゃんが選んだ人ならね、何だかっていいとは思ってんだけど。

譲二 うん。

みどり 結構自由に育ててきたからね、結婚なんてしないかなと思ってたんだけど、ほらしそうもないでしょあんまり。

譲二 そうだね。

みどり でもやっぱり結婚するって聞いたときは嬉しかったな。そういうわかりやすい幸せがそばにあった方がやっぱりいいじゃない、人間は。一緒にいてくれる人がいたほうがいいと思うのよ、やっぱり。

譲二 うん。

みどり ひとりだとやっぱりね。

譲二 …旦那さんは？

みどり いるいる。元気元気。殺しても死にそうにない。

譲二 ああ。…ねえ、何で万引きしたの？

みどり いいじゃないそれは。

譲二 いや、あんまりよくないよ。

みどり いや、だから、、、なんだろうね。ほんとになんとなくなんだけどね。

譲二 なんとなく？

みどり だから、なんとなくスーパーに入って、ぼーっと商品とか見てたらこうなんとなく、すーっと手が伸びて、すーっとお店の外に出てたっていう。商品は怖くなって捨てちゃった。

譲二 ……夢遊病なのかな。

みどり 夢遊病って、寝てないんだから夢遊病じゃないでしょ。起きてんだから。

譲二 なんか薬とかは？ 飲んでないの？ そういう飲み合わせが悪くてなっちゃうのかもしれないし。

みどり 違う違う。そういうんじゃないから。

譲二 そうか。

みどり ……多分ね、神様から見放されたんだと思う。

譲二 え？

みどり 信じてた神様をこの前、燃やしちゃったからね、その罰が当たっちゃったんだと思う。

譲二 ……ん、なにそれは？

みどり え？ だから、和紙でできた神様を祀るんだけどね、この前よく燃えそうだなと思って燃やしちゃったから。

譲二 ……え、それは、そういう、あの、宗教っていうこと？

みどり 宗教？ 違う違う、そんなじゃないよ。

譲二 ああ、違う？

みどり 違う違う、ただの共同団体。土から生えたモノしか食べないっていう教えをみんなで大事にしている、

譲二 みどりちゃんっ、

みどり 嘘だよ。嘘です。

譲二 え？

みどり うそうそ。嘘だよ。そんなわけないでしょ。もう必死。

譲二 ……微妙な嘘つくなよ。わかんないよ。

みどり わかってよそれぐらい。

譲二 わかんないよそれは。なんか説得力あったもん。絶妙なところだったよ。

みどり ごめんごめん。…じゃあ行くうよそろそろ。(手を出す)

譲二 何この手は？

みどり ほら、おじいちゃんとおばあちゃんになっても手をつないでいたいねって言うってたじゃん。

譲二 いいよ、そんな恥ずかしい。

みどり いいじゃん。

譲二 やだよ。

みどり なんでよ。いいじゃん。

譲二 いやだよ。

譲二、みどり去る

「キムラヤ」店内

樹里でてる

春樹とカオリ追って出てくる

春樹 おいおい、どこいくんだよ。

樹里 だからちよっとパチンコ。

春樹 パチンコなんて最近やってなかったじゃん。

樹里 だから久しぶりにやりたくなったからパチンコ行ってくるね。

春樹 なんでだよ。お母さん来るんでしょこれから。

樹里 いやまあ別に会う必要なくなったから。

春樹 なんで？

樹里 え？ だって結婚しないんだから別に会う必要なくない？

春樹 だから、なんでだよそれは。

カオリ ちよっと樹里さん。

樹里 いや、あんたも言ってたよねさつき。結婚なんてしない方がいいって。いいことなんてひとつもないって。うん。だからね、もうやめた。

カオリ ちよっと、え？

春樹 何で急にお前そんな事になんの？

樹里 いや、だからなんかもう、なんか違ってたわ。

春樹 なにが？

樹里 違うタイプの人間だった。

カオリ いや、それはそうかもしれないけど、

春樹 樹里ちゃん、俺わかんないって。なんなんだよさつきから、違うタイプって。一緒だろ。わかんねえ話ばかりすんなよ。

樹里 だからそのね、いや思ってもなかったから、そんな一緒に住もうとかさそんな事言うなんて思ってもなかったから。
春樹 なに？

樹里 え、一緒に住むとか言ったよね？ うちの親と。(カオリに) 言ってたよねさつきこいつ。
カオリ 言ってましたけど。

春樹 だからなに？

樹里 だからちよつとびっくりして。だからもう、やめようよ。

春樹 はあ？ なにを？

樹里 結婚しない。

春樹 なんでだよ？

樹里 しないしない、もうしないよ。

春樹 だからそれをなんでかって聞いてんだろ、わかるように説明しろって！

樹里 あんたはいつたい、誰と結婚するつもりだったんだよ！

春樹 …お前だよ！

樹里 そうでしょ！ じゃあそれだけでいいじゃん！

春樹 はあ？

樹里 それだけでいいでしょ？ 親とか、家族とかは関係ないよね？ それだけでいいよね？ それをまず大事にしろよ。

春樹 してんだろ。

樹里 してないね！ してないしてない。してたらあんなことは言わないねえ。一緒に住んじゃえはいじゃん？ 俺にも親ができるんだよって、できねえよ！ あたしの親だから！ あんたの親はどっか別にいんだろ！ あんたを捨てた親がどっかで生きてるよ！

カオリ そいつを探して来いよ。

樹里さん、それはさすがにちよつとつらい。

樹里 あんた、なに、そういう粋組みが欲しかったの？ 家族とか、お嫁さんとか、親とか、そういう名前が欲しかったわけ？ じゃあそ

こら辺の犬でも集めて名前つけてるよ。みんなで今すぐ大家族だよ！

春樹 人間がいいに決まってるんだろ！

樹里 だから、人間ならだれでもいいのかてめえはよ！ 誰とでもすぐ家族になれて、よかったね！

春樹 いや、だから樹里ちゃんがいいよ。

樹里 おう。だからね、それにあたしは余計な装飾とかつけて欲しくなかったの。そういうのはぶいて、何も無い所でああ、じゃあ一緒に

生きていきますか？ っていうところにおいて欲しかったのよ。

カオリ …いやでも結婚ってなると家族の問題とか、それは、現実問題色々しがらみがあるし。

樹里 うるさい、今現実の話してない。

カオリ ええ？

樹里 あんたがそこに余計なものじゃらじやらじやらつけるから、あたしが思ってたものと全然違うものになっちゃったのよ。

春樹 ああ、やべえ。何言ってるか全然わかんねえ。

樹里 「結婚するってそういう事なんじゃねえの？」なんて言葉にされた時点で、ああもうありえないものになったから。

春樹 じゃあなんなんだよ、何が違うの？

樹里 あんたは結婚して、どうなりたいわけ？

春樹 だから、結婚して、あつたかい家庭を作って、

樹里 それで？

春樹 それで、幸せになりたい。

樹里 ……。

春樹 ええ？

樹里 幸せになれるわけないでしょ。

春樹 は？

樹里 あたしたちが一緒になって幸せになれるわけないでしょって。

春樹 ……わかんねえだろ。

樹里 だからなんでそれがわかんねえのかわかんないよ？ 幸せになれる前提で話してんじゃないよ？ 馬鹿なんじゃないの？

春樹 ……全然わかんねえよ！

春樹でていく

カオリ

…ああ。

樹里

…結婚してもいいことなんかないよね。

カオリ

(困った顔)

樹里

あんたが言ったんだよ？

カオリ

(泣きそう)

樹里

なんであんたが泣きそうなのよ。

カオリ

だって、悲しい。

樹里

おいおい、、、いや、いいのよ。結婚する前にわかってよかったんだから。

カオリ

よくないですよ。そんな、好きなのに。

樹里

でもね、好きだけじゃあね。

カオリ

そんな樹里さんまでまともな事言わないで。

譲二とみどり手をつないで入って来る

樹里

おいおい、手つないで入ってきちゃったよ。

譲二

(手を放して) いやいや、違う違う。

樹里

違う事ないでしょ。仲良しだな。

譲二

いや、それより春樹君。走っていっちゃったけど、どうかしたの？

みどり

あれが春樹さん？ なんか泣いてたよね。

樹里

泣いてたの？ やばいね。

みどり

なに喧嘩したの？ 追いかけてなくていいの？

樹里

いいよ。

みどり

なんで？ 旦那さんでしょ？

譲二

(噓し立てる)

樹里

ああ、無くなった。

みどり え？

譲二 え？

樹里 そうじゃなくなったから。結婚やめた。

みどり ええ？

譲二 なんだよそれ。

樹里 結婚やめました。

みどり なんでよ？

樹里 (カオリを指して) この子にやめろって言われて。

譲二 ええ？

カオリ ちよつと樹里さん！

みどり あなた誰よ！

譲二 あ、カオリちゃん。この店長の、さっきのたかお君の奥さん。

みどり その店長の奥さんが何でそんな事言うの？

カオリ いや、言っていないです。

樹里 言ったじゃん。

カオリ 言ったけど、言っていない。違うでしょ？

譲二 何何という事？

樹里 いやだから、そういう事だから、(みどりに) あ、なんかごめんね。わざわざ来てもらったのに。

みどり ちよつと樹里待ってよ。どういう事なの？

樹里 いやだからそういう事だからさ、なんかできないかもね。結婚なんか、一生ね。

みどり ……お母さんは嫌だからね。

樹里 え？

みどり お母さんは嫌だからね。樹里が結婚しないなんて嫌だからね！

樹里 なんでよ？

みどり なんでってあなたは馬鹿なの。そんなこと考える母親なんているわけないでしょ。

樹里 いるだろ世間にはそんなものも。

みどり お母さんは世間じゃない！

樹里 知ってるよ！

みどり ……なんでよ、楽しみにしてたのに。やつと樹里ちゃんにもわかってくれる人ができて新しい家族みんなで温泉旅行とか、楽しみにしてたのに！

樹里 ……どいつもこいつも。旅行なんか一人で行けよ。

樹里でていく

カオリ ……あ。

譲二 ……みどりちゃん。

みどり ……。

譲二 ほら、…、なんだ。多分大丈夫だよ。2人ね、樹里ちゃんと春樹君。凄く仲がいいんだから。大丈夫だって。よくつまらないことで喧嘩してるんだよあいつら。喧嘩が会話みたいなのやつらだから、多分大丈夫。

カオリ ……いえ、いつもの感じではなかったです。なんか決定的な感じでした。

譲二 ……でも、お互い好き同士なんだから。これはもう確実だ。な？

カオリ 好きだけじゃあ、ダメだって。

譲二 ……そりゃそうだな。

みどり ……ごめんね、譲二君迷惑かけて。

譲二 いや、別に俺は何にも。

みどり じゃあたし行くね。

譲二 え、行くって？

みどり 帰る。用事無くなったから。

譲二 え？ だって樹里ちゃんは？

みどり あの子頑固だから。言っても聞かないから無駄だと思う。

譲二 え、じゃあ、いいの？

みどり いいって事はないんだらうけど、…、まあ、しょうがないよね。

譲二 しょうがないなんて言うなよ。

みどり ……しょうがないことなんていっぱいあったよ。いっぱいあったでしょ？

譲二　でも、そんなの一番嫌いだったじゃない。
みどり　…そうだったけ？

譲二　そうだよ。しょうがないとか、諦めるなんて言葉一番嫌いだったよ。自分の我を通すためならなんだってしてたじゃない。
みどり　ガってそんな、人を虫みたいに。

譲二　言っでないよ。

みどり　でもほら、家族の事なんて特に、しょうがないことしかないよ。ずっともうね負けっぱなし。まあ、勝ち負けじゃないんだろうけどね。

みどり出ていく

カオリ　あ、あの、いいんですか？

譲二　いいよ。なんかもう、疲れちゃった。

カオリ　え、じゃあ、あの、あ、私送ってきます。

譲二　いやだって、カオリちゃん一番関係ないだろ。

カオリでていく

譲二　もう。

譲二あとを追う

路上のベンチ

春樹が来てベンチに座る　うなだれる

たかおがあらわれる

春樹　（顔をあげるとたかおに気づき）なに？

たかお　え、大丈夫ですか？

春樹 なにが？

たかお いや、泣いてたんで。

春樹 ……泣いてねえよ。

たかお いや、泣いてましたよ。大丈夫ですか？ あ、よかったら飲みます？（缶コーヒーを渡す）

春樹 （受け取る）……ありがと。（缶コーヒーを飲む）

たかお ……喧嘩ですか？

春樹 え？

たかお 樹里さんと喧嘩ですか？

春樹 喧嘩っていうか、いやもうなんか喧嘩でもねえよ。よくわからないよ。

たかお ああ。わからないですよね。

春樹 いや、マジでわからない。なんか、説明されたけど全然わからなかった。

たかお わかります。

春樹 え？

たかお わかります。説明してくれてるんだけど、何言われてるか一ミリもわからないやつですよね。

春樹 ああ、そうそう。一ミリもわからんねえんだよ。

たかお わかります。

春樹 ああ。

たかお はい……。

春樹 なに、お前も喧嘩したの？

たかお ああ、離婚を考えてるって言われました。

春樹 ……大変じゃん。

たかお そうなんですよ。（笑）

春樹 笑ってる場合じゃねえだろ。何してんだよ。

たかお わかんないんです。

春樹 わかんないよな。

たかお わかんない。そりゃ、最近あんまりいい雰囲気じゃなかったですけど、でもいきなり離婚って。そんなの寝耳に、なんでしたっけ？

たかお 寝耳に水ですよ。寝耳に水って言いにくいですね（笑）

春樹 無理すんなよ。

たかお はい。春樹さんは？

春樹 え？

たかお 何で喧嘩したんですか？

春樹 …なんか喜んでたら、怒られた。

たかお え？

春樹 一緒に旅行行こうって言ったたら怒られたよ。

たかお なんで？

春樹 だから、わかんねえの。俺夢だったんだよ。家族いなかったからなんか一緒に、団体で、団体旅行するのが夢だったんだよ。じゃあ

怒られたよ。なんでだよ。

たかお いい夢なのに。

春樹 それで、結婚しないって言われたよ。

たかお 大変じゃないですか。

春樹 さっきまで一緒になってカレー食ってさ、このカレーまずいよなって笑ってたのに、いきなり結婚しないって言われちゃったよ。

たかお …まずかったですか、カレー。

春樹 まずかったですよ。ごめんな。

たかお いえ、樹里さんもまずいって言ってました？

春樹 言ってた。樹里ちゃんは喰えてなかった。今度違う種類の種も試してみような。

たかお 二人は、おんなじ味覚を持ってるんですね。

春樹 え？

たかお カオリにもまずいって言われました。

春樹 うん。

たかお さっき、讓二さんと、樹里さんのお母さんに会って、なんか昔の二人のノリみたいな見せつけられてものすごく不快だったんです

けど、でも、それがもの凄く羨ましかったし、僕にはカオリとこういう未来を一緒にしてくれるのかって、めっちゃ考えちゃった。

今度上手いカレーつくってやろうよ。

春樹 …昔、カオリがお店始めるって時に、カオリが好きな花があって、その花でお店いっぱいにしたって言ってました。

たかお

春樹 おう。それで？

たかお 僕が、お花屋さんだから一種類の花でお店をいっぱいになると、そのお花を好きな人しか買いに来ないから、それはできないんじゃない？ って言いました。

春樹 …おう。

たかお カオリは、そういう事じゃないんだけどなって顔をしてました。…なんかずっと昔からこうですよ。

春樹 ごめん。俺今日さ、いろんな人から言われていることが全部わからねえの。わからねえ話を受け入れるスペースがもうねえんだよ。頼むからさ、わかりやすく説明してくれ。俺はみんなの話が分かりたい。

たかお 春樹さん。

春樹 なに？

たかお ちよつとぐらい、自分で考えましようね。

春樹 …お前さ、優しくしてくれよ。

たかお 大丈夫ですよ。あなた達は同じ味覚を持つてるんだから。

春樹 それなんだよ？

たかお 同じ味覚を持つてるくせになんか甘えててむかつきます。

春樹 ええ？

たかお わからないからってすぐ人に聞かないで、ちよつとぐらい自分で考えたらどうなんですか？

春樹 ちよつとぐらい考えてるよ。

たかお ちよつとすぎるんですよ。

春樹 ……お前は自分で考えすぎだと思っけどな。

たかお それは僕のいいところです。

春樹 ……。

たかお 同じ味覚を持つもののくせに。

春樹 それなんだよ？

たかお 仲直りすれば？

春樹 できねえだろ。

たかお できるよ。

春樹 なんて？

たかお 同じ味覚を、
春樹 だからそれなんなんだよ？

春樹、たかお去る

商店街

みどりでくる

追って、譲二とカオリでくる

みどり ほんともういいから。

カオリ そんなだって、楽しみだったんでしょ？ 楽しみだったんですよね、樹里さんの結婚。（譲二に）ですよね？

譲二 うん、楽しみにしてた。

カオリ だったらほら戻りましょ。

みどり なんであなた、そんなに必死なの？

カオリ だってなんか、あたしのせいみたいだもん。

譲二 だからそれは違うってわかったから。

カオリ 私こんなキャラじゃないんです。いつもはもつと場を俯瞰して、ちよつとしたアドバイスしたりする立場なのに。なんかもういよいよ夫婦間ダメなのかなとか思ったら、いや、本気じゃないんですよ。本気の本気でダメだと思ってたわけじゃないんだけど、本気の

一歩手前のダメっていう状況あるじゃないですか。ああ、今そういう状況なのかなとか思ったら、これいつもと違うキャラ出さないとダメだとか思っちゃって。そしたらそれがなんかあんなことになるなんて思わないから。こんなのあたしじゃないんです。カオリちゃん、だっけ？

みどり

カオリ はい。

人間はね、キャラとかじゃないよ。じゃあね。

カオリ 譲二さん、ほら止めてよ。

譲二 いや、

カオリ 見てあの背中。みどりさんの背中。止めて欲しそうにしてる。寂しそうにしてる。譲二さん。昔好きだった人にあんな背中させていいの？ 止めて。

みどり

……。

譲二

……みどりちゃん、

みどり

やめてね、ほんとに。

譲二

え？

みどり

こんなところで変な勇気出さないでね。ほんとにもうそういうのいいからね。

譲二

いや、

みどり

だって譲二君ってそういうのダメな人じゃない。いざっていう時に何もできない人じゃない。だから、やめて。無駄な事するの。

譲二

そんなの、わかんないだろ。

みどり

わかるわかる、わかるよ。だってそうだったじゃん。あなたが浮気してそれがばれたときも、借金がばれてお金返せなくてあたしが

立て替えたときも、あたしの親が死んだときも、あなたわたしに何も言えなかったでしょ？ へらへらへらへら笑ってただけだったよ？ だからやめて。

譲二

そんな事無いだろ。

みどり

そうだったじゃない。あ、違うか。浮気がばれたときは違うか。なんかお菓子買ってきたんだっけお菓子。

カオリ

お菓子？ 浮気がばれて？

みどり

そうなの。お菓子買ってきたのよ。こんなに両手いっぱい袋下げて。駄菓子詰めて。へらへらへらへら。なに、あれは？

譲二

そんな事してない。

みどり

してたから。どうせ普通に謝ったんじゃ、なんか個性が出ないと思って、あたしが面白いこととか変な事とか好きだから、それに合わせてちよつと変なことしようと思ったんでしょうけど、それはもつとくだらない時にやりなさいよ！ あんなときにするもんじ

やない！

カオリ

ちよつと、ここあの商店街だから。

譲二

笑ってただろ！ あの時笑ってたじゃないか！

みどり

笑うしかないでしょ！ あんな事されて笑う以外にどうすりゃいいのよ。呆れてたのよ！

譲二

自分も浮気しといてよく言うよ！

みどり

そりやするでしょ！ 浮気されたんだから浮気するにきまつてるでしょ。なんであたしだけダメなのよ。そもそも！ 付き合っ

ないから浮気にはならないねって言ったのはあんたでしょ！

譲二

でも俺は傷ついた！

みどり

あたしだって、傷ついたわよ！！！！

譲二 …もうやめようよ。

みどり ほら、もう、すぐずるい。すぐそうやって自分の方に引き込もうとして。自分は絶対に間違ってるなんて認めない。ああ、もう思い

出しただけで腹立たしい。

譲二 でも、だってそっちの浮気が原因で別れたんだからね。

みどり だから浮気じゃないでしょ。それに、あなたの方だから、僕たちは時間を置いた方がいい、とか言い出したのあなたの方だから。そ

れを何、あたしのせいにしてるの？

譲二 いや、別にせいにしてるわけじゃない。

みどり 2年間、時間置きましょう。それでもう一度、会いましょう、って何2年間って？ 2年のその時間は何？ それでもう一度出会

うって何？

カオリ ああ。

譲二 わかるだろ！ 時間をおいて、もう一度お互いの存在を確認しあうって事じゃない。カオリちゃんわかるよな？

カオリ 一番ダメな奴です。

譲二 一番ダメな奴なの？

みどり それでだって結局あなた、2年後、あの日、会いに来なかったよね？

譲二 え？

みどり 会いに来なかったよね、あの日。

譲二 いやだって、みどりちゃんだって行かなかったって言ってただろ。

みどり 行ったよ！

カオリ 行ったの？

譲二 え、行ったの？

みどり 行った。

譲二 ……行ったの？

みどり ……誰も来ない。待ってたけど、誰もこなかった。どんだけ惨めな気持ちにさせれば気がすむの？

譲二 ……。

カオリ え、譲二さんはなんで行かなかったんですか？

譲二 ……いや、

みどり 忘れてたのよ。

カオリ え？

みどり 正確には覚えてなかったのよ。この日から2年後に会いましょうって自分で言ったくせに、そのこの日を覚えてなかったのよ。

カオリ …ダメだ。

みどり 譲二君。あなたはね、あの時から何も変わってない。40年間にも変わってない。あ、外見とかじゃないよ、若々しいとかじゃないよ？ 中身がね、何も変わってないね。何よそのシャツ。そんな人が説得なんてしようとするんじゃない。40年間、なにしてたのよ？

譲二 …だから、だから、生きてたよ！

みどり なにも考えないで生きるな！

譲二 ……。

みどり じゃあね。そういう事だから。

みどり去る

譲二 ……。

カオリ (周りの人たちに) すいません。すいません。大丈夫ですんで。ほんとに仲良しですから。すいません。

譲二去る

カオリ ああ、もう。……すいません。すいません。

カオリ後を追う

駅前

樹里がいる

みどりやってくる

みどり ……なに？

樹里 帰んの？

みどり ……帰るよ。用事無くなっちゃったから。

樹里 (うなづいて) ……いや、送ってこうかなと思つて。

みどり ああそう。……うん。

樹里 うん。

みどり ……あ、なんか駅に和菓子屋さん入ってたね。なんか買おつか。

樹里 いいよ、そんなの。

みどり お団子とか、食べない？

樹里 食べない食べない。

みどり あそお。……あじゃあコロッケは？ なんか来るとき並んでる所あつたよ？ 美味しいんじゃないのあそこの。

樹里 大丈夫。

みどり ……うん。

樹里 なんか、すいませんね、ほんとに。

みどり ええ？

樹里 いや、すぐ帰らせることになっちゃつて。

みどり ああ。

樹里 すいませんね。

みどり そりや残念だったけど、まあ、仕方ないんじゃない。よくわかんないけど。

樹里 ……ああ。

みどり 樹里が決めたんならね、仕方ないんじゃない？ 残念だし、よくわかんないけどね。

樹里 ……

みどり それに、ほら、お見合いの事とかもあつたし。

樹里 ……ああ。

たかお出てきて

たかお え、樹里さん所つてお金持ちだったんですか？

樹里 お前どつから出てきた？

たかお お金持ちだったんですか？

樹里 違うよ。何が？

たかお だってお見合いしたことあるんでしょ？ お見合いってお金持ちがやる事でしょ。

樹里 そんな事無いだろ。

みどり いやお父さんがね、一回勝手に知り合いに頼んじやった事あって。

たかお へー。

みどり それで樹里ちゃん、その特別に付き合ってた人いたから、お父さんには言わずに先方に直接電話して断っちゃって。

たかお ああ。

樹里 そんな全部言わなくていいから。

みどり 私もね、お父さんがそんな事勝手にすると思っただけだからさ、大げんか。まあ、そういう事もあってね、今は自由にやってんだ

たかお けどね。

たかお へー、そうなんですか。

みどり …（樹里に）だから樹里も自由にやってくれればいいとは思ってるから。残念だけどね。

樹里 ごめんって。

たかお …え、その時の樹里さんの付き合ってた人って？

樹里 おい。

みどり それがろくでもないのよ。売れないミュージシャンだか、漫才師だかのたまごか見習いとかで。何の生産性もない賽銭泥棒してるよ

樹里 うな人。

樹里 賽銭泥棒はしてない。

たかお そういう人が好きなんですか？

樹里 なにあんた、なんでここいんの？

たかお 春樹さんが待ってますよ。

樹里 え？

たかお うちの店でまっていますから。ね？ 謝りたいって。

樹里 ……いや別にあいつが謝るとかって事でもないんだけど。

たかお でもほら、謝りたいって言うてる人には謝らせてあげましょう。ね？

樹里 …わかんない。
たかお じゃあ、伝えましたからね。

たかお去る

みどり やっぱり気味が悪いなあの人。なんか受け付けられないのよね。

樹里 ……。

みどり ……さつきね、譲二君と喧嘩しちやっただ。

樹里 なにしてんの？

みどり うん。ま、喧嘩っていうか一方的に罵っちゃった。

樹里 ホントに何してんの。

みどり なんかそういう所あるんだよね。譲二君には何言ってもいいみたいに思っちゃうんだよね。

樹里 優しくしてやれよ。嬉しそうだったよ、会えるの。

みどり ……譲二君の事大好きだったんだよね。

樹里 あんまり聞きたくないよそういう話。

みどり 聞いてよ。まあ、昔の事だからさ、思い出の力でそういう風に思っちゃったりしてるのかもしいけど、でも多分大好きだったんだよね。

樹里 へー。

みどり まあ、大好きだった分、大嫌いでもあったから別れるときは、ああ、こいつと結婚とかしなくてよかったなって思ってたけど、でも、やっぱり思い出すと、凄く楽しい時間だったなって思ってた。

樹里 あそお。

みどり だからね、大好きだった人と結婚するっていう事が、幸せになるって事とは限らないんだよね。

樹里 ……うん？

みどり あれ？ 言いたかった事とは逆の結果になっちゃった。

樹里 ……そうなんだ。

みどり そうなんだじゃなくて、ああ、ごめんごめん、そうじゃない。

樹里 ……なんかさ、幸せだから結婚するっていうのが嫌だったんだよね。

みどり え？

樹里 そこに幸せがあるから結婚するんだっていう考え方が好きになれなくて。じゃあ、幸せになれなきゃ結婚しないのかよって思ってる。でも、幸せになりたいから結婚するんじゃないの？

樹里 ……むずくない？

みどり なにが？

樹里 ……幸せになんのか、難しくない？

みどり ……難しいね。

樹里 うん。…どうする？ 帰る？

みどり え？ ……帰るけど。

樹里 いや、花屋、戻ろうかなと思って。

みどり ……じゃあ戻るよ、お母さんも。

樹里 あ、そうですか。

樹里行こうと

みどり あ、先行ってて。

樹里 え？

みどり やっぱり何か買ってくる。

樹里 いや、いいよ。

みどり お団子とコロッケ、どっちがいいかな？

樹里 ……コロッケ。肉のやつ。

みどり わかった。

樹里、みどり去る

道端

讓二がやってくる

譲二 (自販機を殴っている) くそつ。くそつ。出て来いよおい。何で出てこないんだこら。自動販売機は、ジュース出すのが仕事じゃないのか、おい。

カオリでできて

カオリ 譲二さん、お金いれないと出てこないから。自動販売機殴るのやめて。(子供が見ている) ごめんね、なんでもないから。

譲二 (子供に) なんだ? ぼうず。あん? 珍しいか? 自動販売機殴ってる大人見るの初めてか? ああ? いい家庭で育ったんだな? あ、お母さん、素晴らしいご家庭なんですね? どうやったらこんな大人ができるか教えてやろうか? 元気がいいセック
スすんだよ。あ、お母さんごめんね? ごめんね、お母さん。ごめんねー。

カオリ 譲二さん。町の変なお爺ちゃんになっちゃうから。

譲二 もうなってるよ!

カオリ なってないって大丈夫。

譲二 (監視カメラに) 見てんじゃないよ!

カオリ 見てない見てない。この監視カメラは嘘のやつだから大丈夫。

譲二 カオリちゃん、この世はろくでもないな。

カオリ もうそんな事言わない。

譲二 違うのか? じゃあ証明してくれ。この世はいい所だって証明してくれ。拡声器持ってこの世はいい所だ、譲二さんは大丈夫って街角で叫び続けてくれ。

カオリ そんなことしたら逆に大丈夫じゃないって思われちゃうから。ね?

譲二 なんで俺ばかり!

カオリ そんな事無いから。譲二さんだけが大変なわけじゃないから。むしろ恵まれてる方だから。きっと世の中にはもっと大変な思いしてる人いっぱいいると思いますよ。

譲二 : そうだな。そんな事言ったらもつとどうしようもない状況で苦しんでいる人たちに失礼だよな。

カオリ そうですよ。

譲二 じゃあそいつらもひっくるめてみんな死んじやえばいいんだな。

カオリ そんな事言わない。

譲二 そしたら、幸せな奴しか残らないからこの世はハッピーだ。

カオリ そんな世の中ハッピーじゃないから。

譲二 どうせみんな俺なんか死んじゃえばいいと思ってるんだよ。

カオリ 思ってるからもう。大丈夫だから。ね？ 大丈夫大丈夫。

譲二 ……やめてくれよ。30も年の離れた小娘に慰められる男の気持ちがわかるか？

カオリ ……わかりませんよ。

譲二 ……もう行ってくれよ。一人にしてくれ。

カオリ いや、だって一人にすると何するかわからないから。

譲二 関係ないだろ。

カオリ 関係ありますよ。うちで働いてんだもん譲二さん。すぐ噂になりますからね、変なお爺ちゃんが働いてる店だって。

譲二 ……。

カオリ ほら、もうすねてないでさ。

譲二 いいんだよ。どうせ、俺なんか何も無いんだから。ずっとひとりぼっち。恥すらもない。何も無い、虚無のような人生だったよ。

カオリ そんな人生はない。どんな人にも今が最悪でも、小っちゃくてもいるんないこととか、悪いこととかいろいろあって、みんながそれぞれの特異な人生を歩んでる。そうでしょ？

譲二 ……俺の半分も生きてないくせに。

カオリ 見返してやりましょうよ。みどりさんにあんな事言われっぱなしでいいの？ 見返してあげましょう。譲二さんだってできるんだってところ、見せつけましょう。

譲二 俺にできる事なんてないよ。

カオリ あるよ。ほら。みどりさん残念がってた。樹里さんと春樹さんが結婚しないの残念がってた。ね？ 二人を仲直りさせてみどりさんを安心させてあげよ。それができるのは譲二さんしかないよ。

譲二 ……そんなのどうやってやるんだよ。

カオリ それはだから、熱意をもって。

譲二 これだからな。

カオリ 違う違う、わかんないけど。考えましよう？ だって、譲二さん後悔してるでしょ？ ほんとほみどりさんと一緒の人生を歩めなかったことに後悔してるんじゃないの？ そんな事を考えないではいられない人生だったんじゃないの。できれば一緒の時間を過ごしたかったでしょ？

譲二 …だってそれはできなかったから。

カオリ じゃあそうなるかもしれない二人をさ、そうじゃなくしてあげようよ。ね？

譲二 ……どうやってやるんだよ。

カオリ ほら、じゃあ、その、なにかあるでしょ？ なにか。

譲二 なにか？

カオリ だから譲二さんにできる事。譲二さんにしかできないことが。何かあるよ絶対。

譲二 ……。

暗転 音楽

「キムラヤ」店内

春樹がいる

樹里が帰ってくる

春樹 おかえり。

樹里 ……。

春樹 え、あのさ、あの、なに？ お母さんと一緒に住むのが嫌だったの？

樹里 え？

春樹 お母さんと一緒に住むのがいやだった？

樹里 ……え、どういう事？

春樹 だから、そうだったら、悪かったなと思って。なんか喜んで。

樹里 なに？ 考えたの？

春樹 (うなづいて) 考えた。

樹里 いや、別に仲悪くないよ。

春樹 ああ、そうなんだ。

樹里 うん。

春樹 …え、じゃあお父さんとは？

樹里 お父さんは別に、普通だけど。

春樹 いやだから、そういう家族の事とか、いままで、俺わかんなかったからそういうの。いままで興味持ったりしなくて悪かったなと思
つて。

樹里 だから、それは、ホントにどうでもいいからね。

春樹 ああ。

樹里 うん。だからそれは、よかったことだから。

春樹 え？ じゃあなんなんだよ。

樹里 なにが？

春樹 だから、え？ カオリちゃんの事が嫌いなの？

樹里 はあ？

春樹 カオリちゃんの事が嫌いなの？

樹里 そんなわけないでしょ？

春樹 カオリちゃんと一緒に旅行行くのが嫌とかじゃなくて？

樹里 別にどうでもいいよ。

春樹 なんだよじゃあ、お前もバーベキューが嫌いなの？

樹里 だから別に好きでも嫌いでもないよ。

春樹 好きでもねえの？

樹里 それ別にいいでしょ今。

春樹 だってお前あんな楽しい楽しいって言ってたじゃん。

樹里 そりゃ言うでしょ。あんたがあんだけキラキラ笑ってたら。

春樹 ……じゃあもうなんもわかんねえよやっぱり！

樹里 ……。

春樹 樹里ちゃんが何に怒って、なんで俺を信頼してくれなくなったのか、俺わかんないよ。

樹里 そうみたいね。

春樹 怒ってたんだよなさつき。

樹里 ああ、まあ。

春樹 それで、信頼してくれなくなったわけでしょ？ 俺を。

樹里 ああ、まあ。なんか結局真っ直ぐ来んだね。

春樹 そうだよな？ 怒ってて、信頼してくれなくなった。ここまではなんか、何となくわかった。

樹里 ああ、うん。

春樹 でも、そこから先がやっぱり全然わかんない。何で怒ったのか、何で信頼してくれなくなったのか、わかんないよ。

樹里 ……。

春樹 教えてよ。

樹里 でもね、わかりあえるようなことじゃないから。

春樹 なにが？

樹里 いやだから、多分春樹には伝わらない。

春樹 なんでだよわかんねえだろ。

樹里 いや、わかるのよそれは。春樹にはわかんない。

春樹 わかんねえかわかるか、わかんねえから、教えてくれって言ってんじゃん。

樹里 だから教えたってそういう、あのね料理みたいな事じゃないからね。

春樹 …はあ！？

樹里 だから、教えたらできるとか、工夫すれば食べれるようになる、理解しあえるとか、そういうもんじゃないの！

春樹 わかんねえだろそんなの！

樹里 わかるでしょそれはあたしの事なんだから。

春樹 だからそれを、お前の事をわかりあおうって言ってんだろ！

樹里 わかりあえないって言ってんのよ！

春樹 なんてだよ！

樹里 わかんないことだからよ！

春樹 わかるかもしれないだろ！

樹里 わかるわけないでしょ！

春樹 わかんねえだろ！

樹里 わかんなくない！ わかる！

春樹 それがだからわかんねえよ！

樹里 だからそれが、
春樹 わかんねえよ！
樹里 わかんないんでしょあんたは！
春樹 わかんねえよ！
樹里 わかんないんじゃない？ あんた何にもわかんないね！？
春樹 何にもわかんねえよ！
樹里 あんたにわかる事あんの！？
春樹 ねえよ！ ああ！！！
樹里 ……ほらね、やつぱりなんもわかんないんじゃない。っていうか、わかんなくていいから。あんたは、そのままいた方がいいよ。
春樹 ……俺今すげえ腹いてえんだよ。
樹里 はあ？
春樹 だから俺今凄い腹が痛い。多分たかお君のカレーがよくなかったんだよ。腹がいてえの。
樹里 ああ、いっぱい食べてたからね。
春樹 それを樹里ちゃんだつてわかってなかったでしょ？
樹里 何が言いたいんだ。
春樹 だから、俺がわかんないつてわかったように言うけど、俺の事なんか樹里ちゃんも全然わかってないよ。だからわかったように言うなつて。
樹里 ああ。まあ…。そうだね、わかったようになってたよね。こんだけ一緒にいたらそうなるか。3年ぐらい？
春樹 え？
樹里 いや一緒にいて。3年ぐらいでしょ？
春樹 2年と8か月。
樹里 ……。
春樹 なに？
樹里 いや、結構一緒にいたなと思って。トイレ行けば？
春樹 そういうんじゃない。
樹里 正露丸取ってくる。

樹里去る

春樹、椅子に座る

みどりがコロツケの袋を持ってやってくる

みどり あ。こんにちは。

春樹 あ、えっと。

みどり あ、樹里の母です。

春樹 あ、みどりさん？

みどり あ、そうそう。

春樹 …ああ。あ、えっと、

春樹あたふたするがお腹もいたい

みどり あ、大丈夫大丈夫。

春樹 ああ。…ああ。すみません。あ、俺、あの赤木春樹です。あ樹里さんと、えっと、…あ、いや、でもそれは違うしな。ああ、くそ。

(お腹が痛い)

みどり え、大丈夫？ おなか痛いの？

春樹 あ、すみません。

みどり あ、ううん。え、大丈夫？

春樹 はい。…いや、はい。

みどり え、仲直りしてないの？

春樹 え？

みどり 樹里と仲直りしてない？

春樹 あ、すみません。

みどり あれ、そうなんだ。さっき樹里仲直りする感じで帰って行ったけど。

春樹 え、そうなんですか？

みどり うん。

春樹 全然そんな事にはならなかったです。
みどり そうなんだ。

春樹 はい……。…なんか言っていました？

みどり え？

春樹 樹里ちゃんなんか、言っていました？

みどり あー、いや特には。

春樹 ああ、そうですか…。

みどり え、樹里ちゃんとはどうやって出会ったの？

春樹 いや、あの…、町で。

みどり 町？

春樹 なんかあの、居酒屋で。

みどり コンパ？

春樹 いや、コンパじゃないですね。なんか樹里ちゃんが一人でいたんで、

みどり ナンパ？

春樹 いや、ナンパでもないです。なんか…、フィーリングがあっただっていうか。

みどり へー。

春樹 それでなんか、気づいたら2年と8か月一緒にいるっていう。

みどり いいね。

春樹 え？

みどり 覚えてるのは、いいね。2年と8か月。

春樹 ああ。はい。気づいたら結構経っていました。

みどり ……え、やだ。

春樹 え？

みどり え、考えてないよね？

春樹 え？

みどり 距離を置こうとか考えてないよね？

春樹 なんですか？

みどり いや、なにか、いやな予感がして。

春樹 距離をおくって、樹里ちゃんと？

みどり 2年間会わないでおこうとか考えてないよね？

春樹 ……考えてないです。

みどり そう。ならいいんだけど。

春樹 それは、意味わかんないですね。

みどり そうだよね。

春樹 はい。

みどり ……できるだけ、ぴったりくっついていてあげてね。

春樹 え？

みどり こう、ぴたっと、くっついていてあげて。何かの力で離されようとしても、離れないようにがんばってね。

春樹 はい。

みどり 磁石みたいに。

春樹 ああ、磁石みたいに。わかりました。

みどり N極？

春樹 ああ、N極ですかね。

みどり だと思った。

春樹 N極です。

みどり S極になっても離れないで。

春樹 え？

みどり あなたがN極なら、樹里はS極でしょ？

春樹 はい。

みどり あなたがS極になっても離れないで。

春樹 ああ。俺がS極に。え、その時は樹里ちゃんは？

みどり S極のまま。

春樹 ……S極どうしで？

みどり S極どうしで。S極どうしでも、できるだけはなれないでいて欲しい。

春樹　　ゝ、頑張ります。
みどり　うん。

樹里が正露丸とコップに水を入れて持ってくる

樹里　何の話してんのよ。
みどり　あ、うん。春樹さんとは気が合いそう。
樹里　合わなくていいよ、もう。(春樹に渡す) はい。
春樹　ありがとう。(飲む)
みどり　コロッケ、買ってきたよ。
樹里　あ、うん。しまってくる。

樹里、コロッケの袋を受け取ろうとするがみどりが離さない

樹里　え？
みどり　……。
樹里　なに？
みどり　だってゝ、ねえ？
春樹　え？
みどり　やだ、どうしよ。離れない。
樹里　何してんの。
みどり　コロッケが離れたくないって言ってる。
樹里　何言ってるの。
みどり　…仲直りしなよ。
樹里　え？
みどり　春樹さんと。なんかいい人そうよ。
樹里　いや、いないときにしてよ。そういうの。

みどり だってこういうのはきつかけがあつた方がいいかなと思つて。

樹里 どんなきつかけなの。

春樹 樹里ちゃん。

樹里 やめろつて。あんたもお腹痛いんでしょ？

みどり 大丈夫よね？

春樹 大丈夫です。

樹里 ちよつと。

みどり ほら、樹里ちゃん。

樹里 …いやでもね、わかりあえないつていうのがわかつたから。

みどり なに、わかりあえないつて。

樹里 わかんないと思う。

春樹 ……。

(春樹の様子を見て) じゃあなに、そうやって一人で生きていくの？ 誰ともわかりあえないで。

樹里 まあ、なんかそうなんじゃない。

みどり ……讓二君みたいになつちゃうよ。

樹里 え？

みどり ずっと一人つてだつて。それは、讓二君みたいに生きるつて事でしょ？ あんた、讓二君になりたいの？

樹里 ……。

みどり ジョージ&ジュリみたいになるけど。シド&ナンシーみたいな。

樹里 何言つてんのよ。かっこいいな。いいじゃん、何がいけないの？ 讓二いいじゃん。

みどり よくないでしょ？

樹里 一人で生きたって別にいいでしょ？

みどり 一人で生きるの別がいいけど、

樹里 じゃあいいじゃん。

みどり 樹里ちゃん。

でも、多分讓二君はホントは誰かといたかつたんじゃないの？

樹里 え？

みどり 違う？

樹里 いや、わかんないけど。

みどり 多分そうだと思うよ。すごい淋しがり屋だから。

樹里 ……。

みどり 譲二君みたいにホントは誰かと一緒にいたいのに、いられなくて、仕方なく一人でいるっていうのは、なんていうか、ちよつと。

樹里 なによ？

みどり …いや、不憫かなって。

樹里 ……譲二だつて一生懸命生きてんだよ！

みどり うん、それは知ってる。

春樹 樹里ちゃん。

樹里 なんだよつ。

春樹 樹里ちゃんもすごく淋しがり屋だよな。

樹里 あん？

春樹 俺も、樹里ちゃんに譲二みたいになつてほしくはない。

樹里 お前親友だろ！

春樹 譲二の事が好きなのと、樹里ちゃんが譲二みたいになるのはそれはもう全然話が違うよ。

樹里 ……くそお。

春樹 教えてよその、樹里ちゃんの中にある、そのなんかを。

樹里 ……だから、さっき言ったじゃん。それは。

春樹 もうちよつとなんかさ、俺にもわかるように。

樹里 ……だからそれが、難しいんだよ。

春樹 え？

樹里 あんたにわかるようにどうやって言えばいいかわかんない。

春樹 ……。

店の奥からたかお現れて

たかお 船じゃないですか？

三人 ……。

たかお いやそれって、船の話じゃないですか？

樹里 船？

春樹 何お前いたの？

たかお 奥に居ました。

春樹 なんぞ？

たかお いや、ここ僕の店なんです。

春樹 ああ、ごめん。

たかお ごめんなさい、話し聞いちゃって。

樹里 いや、こっちこそごめん。

たかお 樹里さんの言ってるのって、船とか、海の話じゃないですか？

樹里 ……わかんない。

たかお なんか、昔カオリが言ってたんですけど。結婚って海じゃんって。

樹里 結婚って海じゃん？

たかお これから大きな海に出ていくわけだけど、このちっちゃな店を船に例えて、小さい船でも頑張っていこうねって。

春樹 どういうことだ？

たかお だから、小っちゃくてもこの僕たちの船で小さなヨットで大きな海に乗り出していこうよって、そう言ってたなって思いだしたんです。

みどり 詩人だね。

たかお それをうまく乗りこなせませんでしたけど、僕は。だから、樹里さんが言ってるのもそうなんじゃないのかなって思いました。

春樹 お前、ちゃんと話せよ。

たかお いや、だから、樹里さんはいかだでよかったんじゃないですか？

春樹 なんてお前らがヨットでこっちはいかだなんだよ。

たかお いかだぐらいでしょ。それぐらいでよかったんじゃないんですか？ 春樹さんと二人で、ボロボロでも何でもいいから、いかだに乗

って海に出ていきたかったんですよ。でも、春樹さんが、家族ができて幸せになれるって思って、幸せな船で出ていこうとしちゃっ

たかお たからそれは違うなって思っちゃったんじゃないですか？ なんか俺も言われました。もっとちゃんと準備できてから、結婚した

かっとなつて言ったら、そんなのどうでもいいよつて。樹里さんもそうかなつて。カオリよりもつと、二人で、春樹さんがいればそれでよかつたんじゃないんですか。

(樹里に) え、そうなの？

違うよ。

違うつてよ。

嘘ですよ。

嘘なの？ どっち？

でも、春樹さん最初は知らなかつたでしょ？

え？

樹里さんに家族がいるつて事、知らなかつたでしょ？

うん。

だつたら、大丈夫じゃないですか？

…なにが！？

…あんたがそこに乗り込んでこうとしてるようで嫌だつたのよ。

え？

つくろうとしてたじゃん、ふたりでなんか手探りで、そこいらに落ちてるモノをかき集めて、そうやって手作りで、いこうとしてたじゃん。

手作りの何ですか？

…いかだ。

いかだです。

わかつたよ。

それがさ、家族がいるから、つて急にその船に乗ろうとしてるようには見えなのよ。わかる？

ああ、(あまりピンとこず)

あたしは別に安全安心な大航海がしたかつたわけじゃないよ。

大航海です。

うるさいな。(春樹に)なんか一緒にさ、これから幸せになるかどうかなんてわかんないけど、それでも一緒にならいけるよなつて、あんたがそういう風に見えたからじゃあ結婚でもなんでもしていいかと思って思つたの。

春樹
樹里
春樹
たかお
春樹
たかお
春樹
たかお
春樹
たかお
樹里
春樹
たかお
樹里
春樹
たかお
樹里
たかお

春樹 ……

樹里 ……どう？

春樹 え？

樹里 どう思う？

春樹 ……それでいい。

樹里 どれで？

春樹 だから、いかだでいい。

樹里 だからどういいういかだがいいの？

春樹 ボロボロの、壊れかけの、途中で沈むいかだでいい。

樹里 沈みたくはない。

春樹 直すから、頑張つて。一緒に直そうよ。

樹里 ……おう、そうね。一緒に直そうね。

春樹 俺樹里ちゃんと一緒に、二人で生きていきたいと思ってるよ。

樹里 うん。

春樹 二人で楽しい時は一緒に楽しんで、苦しい時は一緒に苦しめる、そんな時間をずっと一緒に過ごしていきたいと思ってる。

樹里 わかったよ。

みどり 樹里ちゃん。

樹里 うん？

みどり 凄いな、この人。

樹里 すごいんだよ。

春樹 大好きだ！

樹里 おうおう。わかったよ。

みどり じゃあ、コロッケでも食べる？

樹里 なんでよ（笑）

春樹 食べます！

みどり よかったね。

樹里 おなか痛いんじゃないの？

春樹　もう大丈夫。
たかお　じゃあ、お茶でも入れましょうか。
樹里　いいよ、別に。

たかお、奥に去る

春樹　（コロッケ見て）これ、俺の好きなやつです。
みどり　あ、そうなんだ。樹里がコロッケがいいって。
春樹　ああ、そうなんですか。（樹里を見る）
樹里　……なんだよ。
春樹　（みどりに）これね、俺が好きなやつなんです。
みどり　うん。
樹里　おい、なんだよ。おい。

カオリが入って来る

カオリ　え？　みんないる。
みどり　あ、あなたも食べる？　コロッケ？
カオリ　え？
みどり　コロッケ、食べない？
カオリ　……あ、大丈夫です。
春樹　なんで？　肉のだよ？
カオリ　大丈夫です。

たかお、白いゼラニウムの花を一株持つてくる

樹里　（たかおに）なにしてんの？

たかお これなんの花かわかる？

カオリ え、白のゼラニウム。

たかお カオリが、最初に好きだつて言つてた花。この花でこのお店をいっぱいにしたって言つてたよね。

カオリ いや、うん。

たかお この花言葉知ってる？

三人 (カオリを見る)

カオリ (見られているので) …え、信頼とか、尊敬とか。

たかお 白のゼラニウムの花言葉は「私はあなたの愛を信じない」。

カオリ ええ？

樹里 そんなモノでお店をいっぱいにしようとしたの？

カオリ いや、それは知らなかったから。

たかお でも、本当はそうだったんじゃない？

カオリ なに、本当はって？

たかお 本当はどこかでそう思つてたんじゃない？ まだ信じてないよつて。これから信じさせてねつて、そう期待してたんじゃないの？

カオリ …何言つてんの？

たかお 俺はその期待に応えられなくて、ヨットを沈みそうにさせてしまった。

カオリ …はい？

たかお だから、カオリが離婚したって言うなら、…うん。

春樹 ……おいおい。

カオリ ……。

たかお ごめん。

カオリ ……いや、ちよつと、あのさ、あたし離婚を考えてるつて言つただけだよ？

たかお うん、だから、

カオリ 誰が離婚したいつて言つたの？

たかお ……え、違ふの？

カオリ 違ふでしょそれは。え、離婚したいの？

たかお いや、したくないけど、

カオリ　したくないならなんでそんなこと言うの？
たかお　だって、

カオリ　説得するとか、信頼を回復しようとするとか、なにかあるでしょ、することが。
たかお　説得できるの！？

カオリ　知らないよ！　できるかどうかじゃなくて、やりたいかどうかでしょ！　どっち？
たかお　それはやりたいけど。

カオリ　じゃあしなよ！　なによこの花！　この花の意味何！？
たかお　だから好きだって言ってたから。

カオリ　あなたの愛を信じないとかいう意味なんですよ？　それはどういうつもり？
たかお　いや実はね、真の友情っていう意味もあって。

カオリ　真の友情！？
たかお　だから、別れても仲良しでいたいなっていう。

カオリ　馬鹿じゃないの！？　何？　友情？　友情！？
たかお　……。

カオリ　愛情は！？
たかお　……。

カオリ　ない！？
たかお　あるあるあるある。ある。あるよ。いっぱいある。

カオリ　じゃあこんなの渡してこないでよ。こんな花なんかで、人の気持ちをどうこうしようとししないで。こんなものでごまかそうとしない
たかお　でよ！

カオリ　……ごめん。
たかお　ああ、もう！　あたしはさ、一緒にいたいから、だから一緒に考えようよって言ったんじゃない！

カオリ　怒ってないの？
たかお　怒ってるよ！　怒ってるけど、……けどって話でしょ！
たかお　……、ああ。

カオリ　わかってないのにわかったような感じにならないで。
たかお　でも、なんか幸せにできなくて、

カオリ
だからなんで、たかおさんに幸せにされないといけないの？
え？

カオリ
別にそれはさ、勝手になるから。こつちで勝手に。でもやめないでよ絶対に。幸せにしようとするのはやめないで。でもなるのはこつちで勝手になるから。でもやめないで。
難しい。

たかお
そこに一緒にいればいいでしょ？

カオリ
……うん。

たかお
、、ああ、もう。しっかりしてよ。

カオリ
うん。

みどり
……じゃあ、コロッケでも、食べよっか。

樹里
どんだけ食べたいのよ。

みどり
だって美味しそうなんだから。

春樹
こんどさ、みんなで温泉行かねえ？

樹里
ええ、マジで？

春樹
あ、二人の方がいい？

樹里
いや、別にいいけどさ。

みどり
あたしも行ってもいいの？

春樹
もちろんですよ。たかお君たちも行くだろう？

たかお
あ、えっと……（カオリをうかがう）

カオリ
……行こうよ。

たかお
あ、うん。

みどり
あ、じゃあお茶入れよっか？

カオリ
あ、じゃあ。あたしが。

みどり
あいいい、いい。あたしやるから。

カオリ
いやいやいいですよ。

みどり
大丈夫大丈夫。座ってて。座ってて。

カオリ
いや、場所とか。

みどり 大体わかるから大丈夫。
樹里 いいよ、じゃあたしやるよ。
みどり いいのいいの。もう、みんなは仲良くしてて。こっち？
カオリ あ、はい。すみません。

みどり去る

たかお ……やった方がいいんじゃない？
カオリ そうだよね。
樹里 いいよいいよもう、好きにやらせて。
春樹 なに温泉にする？
樹里 なんて温泉なの？
春樹 うん。温泉。
樹里 だからなんで温泉なのよ。
春樹 みんなで行ったら楽しいじゃん。
樹里 あんたの基準がわかんないよ。
春樹 これからわかっていこうな。
カオリ え、二人、仲直りしたの？
春樹 あ、うん。した！
カオリ そうなんだ。あ。
たかお 譲二さんは？
カオリ え？
たかお あ、譲二さんは？
春樹 ……じょうじ？
樹里 そういえばいないね。帰ったの？
カオリ ……あ。

カオリ、部屋の隅にある作業部屋に走る
譲二、部屋から出てくる。片手には緑色の花束

カオリ

あ。

春樹

何お前いたの？

譲二

……。

春樹

え？

カオリ

あ、えっと、あの、譲二さん、二人を仲直りさせようと、お花を作ってくれてて。

樹里

え？

カオリ

ね？

譲二

もはや何の役にも立たないけどな。

カオリ

いや。

譲二

……。

カオリ

譲二さん。

譲二

……。

カオリ

……みどりさんにあげましょう？

譲二

え？

カオリ

だってほらそれ、もともとはみどりさんが欲しがってた、緑色の花でしょ。

譲二

でも、こんな花なんか、いらないんだろ。

カオリ

……いります。ね、樹里さん？

樹里

え、なにが？

カオリ

だから、みどりさんにあげた方がいいですよね？

樹里

いや、わかんないけど、

カオリ

喜びますよね？

樹里

まあ、嬉しいんじゃない？

譲二

……。

みどり戻ってくる

みどり お茶の場所やっぱりわかんなかった。あれ、譲二君。

譲二 あ。

みどり ……譲二君。あの、さっきはごめんね。

譲二 え？

みどり いや、なんかあんな感じになっちゃって。悪かったなと思って。

譲二 ……。

みどり ごめんね。

譲二 ……何も気にしてない。

みどり あ、ほんと？

譲二 ほんとほんと、もう、なんにも気にしてない。むしろなんかあの感じが懐かしくて、嬉しかったよ。

みどり そうだね。そうだよ。よかった。

譲二 これ。(花を差し出す)

みどり え？

譲二 みどりちゃんが、最初に会った時、欲しがってたグリーンの花。

みどり え？

譲二 ずいぶん遅くなっちゃったけど、よかったら。

みどり ……うん？

譲二 あ、だから、ご注文の品です。

みどり ……注文してない。

譲二 あいや、だから最初に会った時。

みどり え？

譲二 ほら、40年前の最初に会った時。俺がやってる花屋で。

みどり あ、うん。

譲二 その時にほら、欲しがってたやつ。

みどり ……欲しがってないけど。

譲二 ……。

みどり ……。

譲二 え？

みどり え、最初の時ってお花屋さんでしょ？

譲二 そうだよ、だから花屋来て、花買いに来て、緑の花、探してただろ？

みどり ……いいえ。

譲二 ……いいえ？

みどり 探してないよ、緑の花なんて。

譲二 ……なんで？

みどり いや、なんでって言うか、探してないよ。

譲二 ……。

春樹 お前、間違えて覚えてたの？

譲二 ……。

みどり だって、そんな緑の花って。そんな自分の名前と同じ花探す女なんて、気味が悪いじゃない。

譲二 ……。

みどり あの時、確か、青い花探してたんじゃない？

譲二 青い花？

みどり うん、なんだっけな、なんか、めったに見つからない幻の青い花っていうのがあって、知らない？

譲二 知らない。

みどり あれ、なんだっけな？ なんか山にしか咲かないみたいな花なんだけど。

たかお あ、青いケシじゃないですか？

みどり え？

たかお 山に咲く幻の青いケシ。

みどり あ、確かそれそれ。それを聞いて探してたのよ。町のお花屋さんになんかあるわけないのにね。

たかお ほんとですね。

みどり うん、確かそうだったと思うよ。

譲二 ……。

春樹 まあ、なんだ。よくあるよな。
樹里 うん。よくあるよ。
みどり もう。ほんとに何も覚えてないんだから。

譲二、花束を強く投げ捨てる

みどり やだ！

春樹 譲二！

譲二 畜生！

カオリ 譲二さん。

譲二 ずっとこうだよ！ 65年、ずっとこうだ！ 65年！

春樹 落ち着けよ。

譲二 うるさいよ！

春樹 大丈夫だって、ほら、これからきつといいことあるよ。

譲二 これから！？

春樹 いや。

譲二 ほんとだな？ これから、あるんだない事が？ 俺のこれからに、ホントにいい事があるんだな！？

春樹 ……（目をそらす）

譲二 畜生！ お前らなんかどうせ、みんな別れておしまいだよ！

樹里 なんてこと言うのよ。

譲二 何が船だ！ 馬鹿じゃないか！ どうせすぐ沈没だよ。一メートルも進まずに沈没して、砂漠に流されて、干からびて死ぬんだよお

春樹 前らは！

譲二 やめろって。

譲二 馬鹿にするなよ！ 何が不憫だ。…馬鹿にするなよ！

春樹 してねえよ。

譲二 馬鹿みたいな夢でも見てろ！ 畜生が！

譲二、走り去る

みどり
ちよつと、譲二君！

みどりも後を追う

樹里
譲二、なんで、あたしにお花渡そうとしたの？

カオリ
なんかその、みどりさんとの過去も踏まえて、自分たちみたいになるなよつていう教訓を話すみたいなのを言っていました。

樹里
ああ、まあ、お花渡す意味はちよつとわかんないね。

春樹
なあ。

カオリ
……。

みんな去る

夜の路上

譲二出てきて

譲二
くそ。畜生。(息切れ)

みどり追ってきて

みどり
譲二君。そんな無理しないで。倒れちゃうよ。

譲二
うるさいよ。

みどり
もう若くないんだから、そんな無理しないで。

譲二
まだ65才だよ！

みどり
もう65才なんだよ？　そういう考え方一番危ないよ。

譲二
……畜生！

みどり そんなカッカしないでよ。血管切れちゃうよ？

譲二 ……俺にだってできる事はあるからな。

みどり え？

譲二 俺にだってできる事はあるからな！

みどり なにか？

譲二 だから、なにか、あるだろ、おれにも。できる事があるだろ、なにか！

みどり もうそんなのないよ、無理しないで。

譲二 無理してない！

みどり 誰も、求めてないんだよ。

譲二 求めろよ！

みどり もう。

譲二 ……取って来てやるよ。

みどり え？

譲二 青い花？ 取って来てやるよ。そんなの俺が取って来てやる。

みどり 何言ってるんよ。そんなの無理でしょ？

譲二 無理じゃない！ どこにある？ どの山にあるんだよそれは！？

みどり 確か、ヒマラヤ。

譲二 ヒマラヤ。ヒマラヤ！？

みどり なんか、ヒマラヤにしか咲かないんだって。

譲二 ……。

みどり 無理でしょ？

譲二 無理じゃない！

みどり 無理だよ何言ってるの？

譲二 行ってきたやるよヒマラヤに！ ヒマラヤに行って、青い花を取ってくる！

みどり できるわけないでしょそんな事。

譲二 できる！

みどり できないよ。できないでしょそんな事。もうできないこともあるよ。そんなバカな事言っていないで、大人しくしてなうて。

譲二 うるさい！ 首洗って待ってろよ！

譲二 走り去る

みどり ちよつと譲二君！ ……。

暗転

明かりがつくと防寒具を着た譲二がいる。そこはヒマラヤの麓

譲二 ここがヒマラヤか。寒いな畜生め。

防寒具を着た春樹がやってくる

春樹 やべー寒いな。

譲二 ついてこなくていいって言っただろ。

春樹 そんなん一人で行かせられるわけねーだろ。

譲二 それでなんだった？ わかったか、場所？

春樹 おう、ネパールのカレーはめちやくちや旨い。たかおくんにも食べさせてやりてえな。

譲二 花の場所は？

春樹 わかんない。

譲二 役に立たないな。いいよ、行くから。

春樹 おいおい、無謀だろ、そんなの。もうすぐ山の天気やばいって言ってたぞ。

譲二 うるさい。黙ってついて来い。

春樹 譲二、いつからそんな男らしくなったんだよ。

猛吹雪の山中

春樹 すげー吹雪いてんじゃねえか！
譲二 うるさい！ 花を探すんだよ！
春樹 花なんて咲いてねえだろ！
譲二 咲いてるよ！ 絶対咲いてるんだよ！

遭難した二人

春樹 どうすんだよ。思いつきり遭難してんじゃねえか。偶然、洞窟があつて助かったけど。
譲二 ……。

譲二。

譲二 (震えている) 外が落ち着いたら、探しに行くからな。

春樹 いや、お前さつきからずっと震えっぱなしだからね。

譲二 (口が凍っている) だいじょうぶ。

春樹 大丈夫じゃねえって！ ちよつと待ってろ。俺が誰か探してくるから。

二人、秘境の村を見つけて

春樹 (何か飲んでる) よかったなー。山あいの村偶然見つけられて。

譲二 (飲んでる) 変なコーヒーだなこれ。

春樹 なんか村の特産らしいよ。

譲二 これ飲んだら、行くからな。

春樹 まだ行くのかよお前。もう諦めろって。譲二にしては頑張ったよ。帰ろう。

譲二 帰らない。お前だけ帰れ。

春樹 何がお前をそうさせるんだよ？

再び猛吹雪の中

春樹　また、吹雪じゃねえかよ！

譲二　畜生――！

春樹　もう立つてらんねえよ！　やばいつて全然前に進めない！

譲二　ええ！？

春樹　全然前に、す、す、め、な、い！

譲二　春樹！　俺は生きてるよ！　今生きてるって実感がするよ！　この65年生きてるって思ったことなかったけど、つらいこととか、

苦しい事とか全部諦めて逃げてきたけど、今は言える。俺は逃げてない！　今、俺は逃げてないよ！　吹雪がなんだよ、畜生が！

今ここにいるぞ、おれは、いま、ここだ！

吹雪が晴れる

春樹　譲二？

譲二　……。

春樹　おい、譲二？　やばい、あのコーヒー、ケシの実が入ってたんだよ。

譲二　ケシの実？

春樹　アヘンのもと！

譲二　春樹、……みどりちゃんがいるよ。

春樹　いねえよ！　すぐ人連れてくるから！　動くなよ！　おい！

春樹去る

譲二

みどりちゃん。……うん、そう。頑張ったよ。……うん、そうかな？　……俺も。俺も、一緒に、同じ人生を歩きたかった。でも、できなかつたけど、そうならなかつたけど、お互いが、お互いの人生を歩いてきて、それで良かったんじゃないかと、今は本当に、そう思ってるから。また、違う人生になつても一緒に過ごす時間はあの時の数年間だけになるだろうけど、まあ、それでも、あの時の時間は本当にかげがえのないものだったと今は、思う。ありがとう。本当に、ありがとうございました。

譲二、静かに横になる
春樹出てきて、

春樹　おい譲二？　嘘だろ？　おい、譲二？　譲二？　おい！

暗転

明かりがつくと、譲二とみどりがいる

譲二の手には一輪の青い花

みどり　死んだのかと思った。

譲二　死なないよ。ギリギリのところまで助けてもらった。

みどり　そう。

譲二　（花を差し出し）はい。

みどり　（受け取り）ほんとに取ってくるとはね。

譲二　40年ぐらい遅れちゃった。

みどり　うん。

譲二　あと、これも40年遅くなったけど。

みどり　え？

譲二　結婚、おめでとう。

みどり　…おっそいなー。…ありがとう。

おしまい